

皇 學 館 大 学
ボランティアルーム

平成27年度 活動報告書



目 次

担当教員あいさつ	1
代表あいさつ	2
1. コーディネート状況報告	
・平成 27 年度ボランティアコーディネート活動報告	7
2. ボランティアルーム企画・活動報告	
・HELLO!!ボランティア 活動報告	15
・倉田山清掃企画 活動報告	19
・市民活動 YOUNG フェスティバル 活動報告	23
・松阪福祉祭り 活動報告	26
・ボランティアルーム季刊誌 活動報告	29
・平成 27 年度年間反省会 活動報告	32
・倉陵祭模擬店 活動報告	35
・ネパール地震救援募金活動 活動報告	37
・サマースクール 活動報告	40
・他大学視察 in 愛知淑徳大学 活動報告	44
・防災運動会 活動報告	48
3. アンケート報告	
・平成 27 年度メール登録者対象アンケート報告	55
4. 資料	
・平成 27 年度 年間スケジュール	65
・平成 27 年度 ボランティア募集一覧	66
・平成 27 年度 ボランティアルーム学生スタッフ一覧	69

平成 27 年度をふりかえって

皇學館大学ボランティアルーム担当教員

教育学部 叶 俊文

平成 27 年をふりかえってみると、ボランティアルームの学生たちは様々なことに挑戦してくれたのではないかと考えている。ただし、その挑戦が挑戦のままで終わるのか、次への発展につながっていくのかは学生諸君の意志によるところが大きいことを理解しているのかどうかになる。

私の記憶の中では、「防災運動会」と「倉田山お掃除大作戦」の印象が強く残っている。この 2 つの企画は皇學館大学の周辺地域を巻き込んだ企画として注目に値した。尚且つ、子どもたちを取り込んだ企画ということになった。防災運動会では人数は少なかったものの、地域の子どもたちが大学生と一緒に「防災」に対して考える機会となったと思っている。それを運動会という視点にしたのが大学生らしい発想でもあった。当日は子どもたちも大学生も楽しみながら防災についての考えを廻らしていた。倉田山お掃除大作戦は皇學館高校と皇學館中学に参加を呼びかけて、私たちが生活している倉田山周辺をきれいにしようというものだった。高校生や中学生に呼びかけるということで参加がどのようになるか不安ではあったが、両校の先生方の協力もあり多くの生徒諸君の参加を得ることができた。当日、大学生と高校生、中学生と一緒に話をしながらゴミ拾いをしている姿は、実に微笑ましいものであった。私自身も高校生や中学生と話すことに新鮮さを感じていた。地域の美化と新たなつながりという 2 つのことが出来たのかと感じていた。

この 2 つの企画はボランティアルームが地域の若者とのつながり役をしたことに意味がある。これまでのボランティアルームのつながりと言えば地域の社会福祉協議会などが中心であった。ここでは情報の交換やコーディネーターとしての切磋琢磨ができたと考えている。しかし、地域の方々とのつながりとしてはまだまだ弱いところがあったように思う。その点で、ひとつの殻を破ることができたのではないかと考えている。さらに言えば、どちらも良い企画だったと言えることである。小学生も中学生も高校生も満足した笑顔を見せていたことは、ひとつの象徴になろう。さて、これらの企画を続けるのか？

本年度で多くの 4 年生が卒業していく。この 4 年生は皇學館大学にボランティアルームを根付かせた学生たちである。社会福祉学部からの流れを受け入れ、皇學館大学ボランティアルームの位置を確かなものにしてくれたのである。彼らの卒業をもって第 1 ステージの終焉とするならば、次のステージに何を持っていくのか、どんな方向で行くのかを考えなければならない。正に「どんなボランティアルームにしていくのか」の始まりになる。2 つの企画を継続していくのか、ボランティアルームの顔になるのは何かを考えていかなければならないだろう。多くの 1 年生がその土台になってくれることを期待している。

卒業生していく 4 年生の諸君は、よく耐えて踏ん張ってくれた。君たちが作ってくれた下地は崩れることはないと確信している。

原点へ。

教育学科 4 年 大谷奈都希・黒田ゆかり
現代日本社会学部 4 年 久保圭・西村友希

毎年、年が明け講義が始まったところから、「さあ、来年度はどうしていこうか」と来年度の活動内容の検討が行われます。しかし、今回は私たち 4 人の特別な思いがありました。なぜなら、名張学舎からボランティアルームを伊勢学舎へ引きついだときの先輩たちと交流があった私たちが卒業すると、名張学舎のころのボランティアルームもスタッフも知らない学生ばかりになるからです。この 1 年間で私たちにできることはなんだろうか、先輩たちの思いを後輩へつなげていくためにはどうしたらいいのだろうか、そう悩みながら今年度がスタートしました。

「何かを下級生に伝えたい」と考えたとき、私たちが出した答えは“原点にもどる”ことでした。今まで 4 年間多くのコーディネートを行い、企画もたくさん考え、開催してきました。ボランティアルームのイメージを変えたいという思いから、新しいことにチャレンジしてきました。その都度、失敗も多くあり、試行錯誤してきました。しかし、最高学年となり、ボランティアルームの歴史をふり返ると、私たちが伝えていけるのは、「初心者講座」の大切さなのではないかと思いました。ボランティアルームの原点は、ボランティアの良さを伝え、ボランティアに行く仲間を一人でも多く作ることだと思います。けれども、私たちはいつしか、人を集めることに重きを置き、一番大事なことであるボランティアの良さを伝えることを忘れていたかもしれません。

そこで、もう一度ボランティアの良さを伝えるため、「初心者講座」をすることを決めました。ボランティアに興味があるが、どこか不安があり一歩進めないという学生に気軽に参加してほしいと思い「HALLO!!ボランティア」という企画を行いました。実際にボランティアに参加した学生の体験や思いを聞き、企画に参加した学生から、ボランティアに参加したいという声を聞くことができました。その声がボランティアルームにとって大切なことだということに改めて気づかされ、このような企画をこれからも引き継いでいってほしいと感じました。

私たちだけでなく、後輩たちも多く悩んでいました。「先輩たちが卒業したら…」という言葉がこの 1 年間で一番多く聞いた気がします。私たちもボランティアルームはどうなっていくのかなという心配がなかったわけではありません。しかし、ある時、後輩たちの行動力に圧倒された出来事がありました。それは、ネパール地震が起きたときでした。ニュースで放送された翌日、下級生から「自分たちで何かできることがしたいから、大学内で募金活動がしたい!」という発言があり、その翌日にボランティアルームに行くと、募金箱が作られていました。そして、その翌日から昼休憩の時間に食堂前や校舎前で募金活動が行われました。後輩たちのすばやい行動から、多くの寄付金が集まり赤十字病院へ送るこ

とができました。“自分たちにできることをする”そういうボランティアルームの原点も後輩たちから改めて気付かされました。それと同時に、心配でなく来年度からのボランティアルームはどのように変化していくのだろうという期待へと変わりました。

5年前、名張学舎から始まったボランティアルームが、伊勢学舎へ移転し、伊勢学舎でのボランティアルームが始まりました。スタッフの人数も少なく、時間に追われながらコーディネートをしていた中、先輩たちが卒業し、ボランティアルームの存続も怪しまれたときもありました。しかし、先輩たちから受け継いだボランティアルームを絶対になくしたくない、なくしてはいけないという思いがありました。そのためには、一緒にボランティアの良さを伝えていける仲間をつくろうと決意し、私たちの思いは少しずつ届き、1人また1人と仲間が増えました。そして、たくさんの後輩たちも加入し、3年前4人だったボランティアルームのスタッフが、今では20名を超える数となりました。「あのときがあったから、今がある」と4年たった今そう思います。

これから、また新しいボランティアルームがスタートします。“ボランティアの良さを伝え、一人でも多くの仲間を増やす”その原点を大切にしながら、新しいことにもどんどん挑戦し、新たなボランティアルームになることがとても楽しみです。

最後になりましたが、ボランティアルームの開設当初からご支援・ご指導いただいている教職員の皆さま、そしてボランティア依頼やボランティア学生の受け入れをしてくださったボランティア関係者の皆様に心より感謝申し上げます。そして、どうか今後とも変わらぬご支援ご協力をよろしくお願いします。

1. コーディネート状況報告

平成27年度ボランティアコーディネート 活動報告

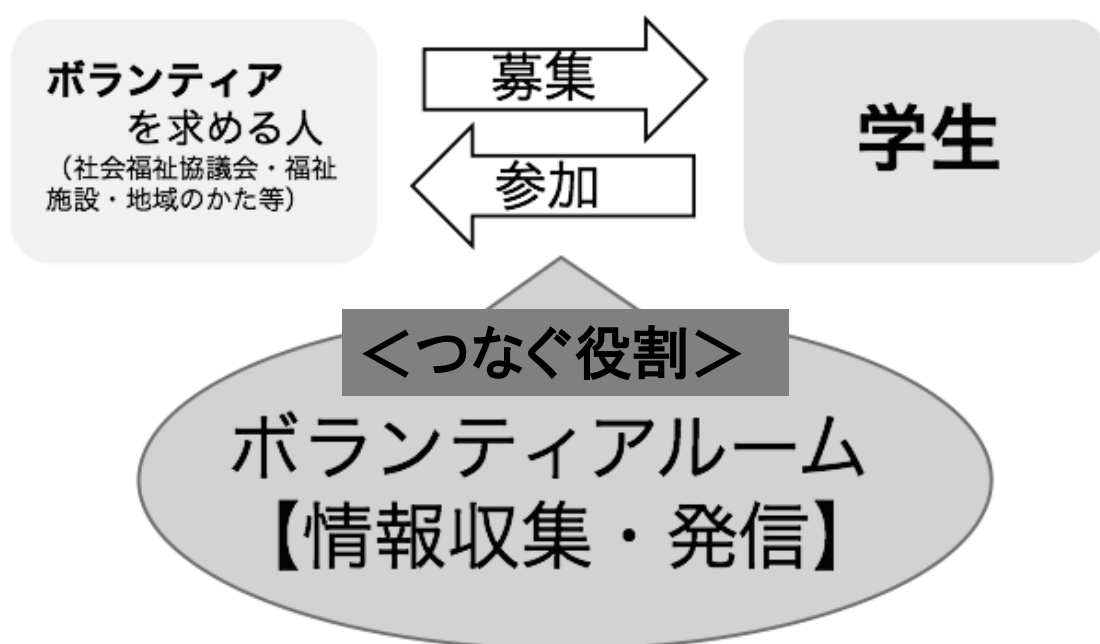
1. はじめに

皇學館大学ボランティアルームでは、学生のボランティア活動の支援を学生スタッフが担っており、ボランティアコーディネートを第一に考え活動を行っている。ボランティアコーディネートについて、今年度の活動を報告する。

2. ボランティアコーディネート報告

ボランティアコーディネーターとしての学生スタッフの活動は、地域から依頼されるボランティアを受付した後、学生にボランティア情報を提供・調整し、地域と学生を繋ぐことである。

ボランティアルームの仕組み



ボランティアコーディネートを学生スタッフが行うことで学生のボランティアへの参加をより促すことができると考える。学生スタッフがボランティアコーディネートを行うにあたって、気を付けなければならないことがある。それは、地域と学生の関係を対等かつ互いが成長できる関係へと調整することである。円滑にコーディネートを行うために、学生スタッフ一人一人がボランティア先との連絡を取り合うことの責任や意識を持ち取り組んでいく必要がある。

3. コーディネート状況

今年度、地域から依頼されたボランティア情報件数は73件であり、コーディネート件数は32件であった。コーディネート人数は、のべ149人になる。一見、多いように思われるが皇學館大学は約3000人の学生が在籍しているので、約20人に1人という低い割合でのボランティア参加となっている。また、同じ学生がいくつかのボランティアに参加していることから参加の実人数はもっと少ないことになる。これらのことから、まだまだボランティアに参加する学生が少ないと言える。内訳は以下の通りである。

ボランティア総件数	コーディネート件数	コーディネート人数
73件	32件	128人

ボランティアルームでは3つのジャンルに分けて情報を発信している。

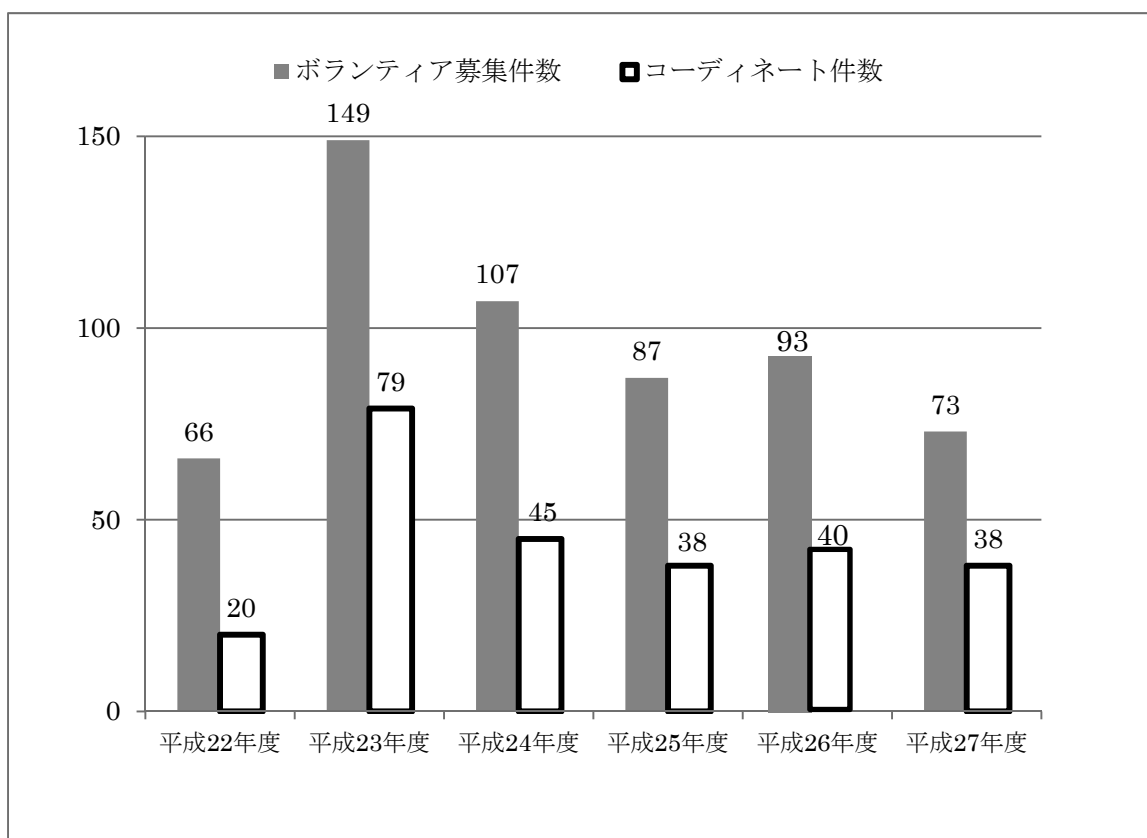
- ① 福祉系：高齢者施設、障がい者（児）、福祉競技スタッフなど
 - ② 地域援助：地域イベント、災害地域援助活動、コンサートスタッフなど
 - ③ 子どもサポート：託児補助、特別支援学級活動、子ども対象イベントスタッフなど
- 3ジャンルのボランティア情報件数は以下の通りである。また、一つの情報に複数のジャンルが重なることもある。

	ボランティア件数	コーディネート件数	参加人数
地域	29件	10件	74人（昨年より48人増）
福祉	40件	8件	19人（昨年より12人減）
子ども	47件	14件	35人（昨年より12人減）

ボランティア件数は、福祉・子どもの2ジャンルのボランティア依頼件数が多いことがわかる。本大学には教育学部があり、教員志望の学生が集まるということと、現代日本社会学部の福祉分野の学生が多いことがあり、子どもと福祉ボランティアの依頼件数が多いのではないだろうか。また、地域のボランティア参加人数に注目すると74人（昨年よりも48人増加）の学生が地域貢献のために活動している。例年、地域のボランティア参加人数を促進することが課題となっていたが、今年度はサークルや部活で活躍し披露できるイベントボランティアの募集があったため、沢山の学生の参加に繋げることができた。このように学生が地域に出て、地域や子ども、福祉のためにボランティア活動ができるよう

に導いていくことが大きな課題となる。学生スタッフ一人一人がボランティアに参加し、その喜びを新たな学生に伝え、ボランティアの輪を広げていく必要がある。

前年度までのボランティア依頼件数とコーディネート率を比較すると以下の通りである。



ボランティア募集件数は、昨年度と比べ減少していることがわかる。コーディネート件数は、平成 24 年度からほぼ変化はない。コーディネート率という観点で見ると上昇しているが、そもそもボランティア件数が減少している為、我々のサービスが向上した成果だとは言えない。

ボランティア件数が減少している原因として考えられるのは、やはりボランティア参加者を集められないことにある。ボランティア先までの交通手段が無いという問題だけでなく、メール配信時の文章や掲示板情報の充実が足りていない結果であると考え。来年度以降も、ボランティアに興味がある学生が気軽にボランティアルームを利用できる環境作りを続けていかなければならない。

4. 学部学科別参加人数

学科別のボランティア参加人数は以下の通りである。

学部学科	参加人数
文学部：神道学科	6 人
国文学科	15 人
国史学科	9 人
コミュニケーション学科	10 人
現代日本社会学部	24 人
教育学部	85 人

教育学部は、例年ボランティア登録学生が多く、子どもボランティアへの関心が高い傾向がある。よって学部学科の中で最もボランティア参加人数が多い。次いで現代日本社会学部が多いが、これは夏休み中に福祉や地域のボランティアに参加する学生が多いためであると考えられる。これに対し、文学部の神道・国文・国史・コミュニケーション学科は比較的ボランティア参加人数が少ない事が分かる。これは、教育・現代日本社会学部はそれぞれの学部に関わるボランティア(子どもとふれあうボランティア等)があり、興味を持ちやすいのに対して、文学部神道学科などは興味を持ちにくいかもしれない。我々ボランティアルームとしては、「教育学部なら子どもボランティア」などと偏ってボランティアを選んでもらうのではなく、今まで関わりがなかったジャンルにこそ挑戦し、学生のうちに見聞を広めていく活動を推進していく必要があると考える。

5. ボランティア登録学生についての詳細

ボランティア登録学生からみるコーディネート进行分析。今年度の登録学生は366名である。登録学生の詳細は以下の表になる。

登録学生詳細										
学年		1 年		2 年		3 年		4 年		学科別合計
学部学科別		男	女	男	女	男	女	男	女	
文 学	神道	4	1	0	1	1	0	0	0	7
	国文	10	13	3	6	0	1	0	7	40

部	国史	11	1	5	2	3	3	1	5	31
	コミュニケーション	3	8	4	5	0	0	0	2	22
教育学部		30	71	4	46	7	20	9	33	220
現代日本社会学部		17	9	5	3	2	3	1	4	44
男女別合計		75	103	21	63	13	27	11	51	364
学年合計		178		84		40		62		

学部学科別でみると、教育学部の学生が圧倒的に多いことがわかる。しかし、ボランティアは子ども系のボランティアだけではない。どの学部学科の学生でも、地域・福祉・子どものボランティアに興味を持ち、参加促進に繋げていく工夫が必要である。また、文学部は登録学生が少ないと感じるであろう。しかし、去年よりも登録学生の人数が少しずつではあるが増加している。4月に行われた各学年のガイダンスでは、ボランティア登録への呼びかけを行い、一人でも多くの学生がボランティアへの第一歩を踏み出せるようにしていかなければならない。また、学生スタッフから学生へとボランティアの良さをより具体的に伝えていく必要がある。そのために、今年度から学生スタッフが学生へ発信できる年度初めのガイダンスで、各学年に合った DVD を上映している。1年生の DVD は、ボランティアルームの存在やボランティアの種類、ボランティア参加の手続きなどが分かりやすい内容となっている。2・3年生の DVD は、学生生活に慣れ、勉強や部活、バイトと忙しい生活の中でもボランティアに参加して、ボランティアでしか経験できないことを見つけるような内容である。4年生の DVD は、残りの学生生活をどう過ごすのか、社会人になるまでに経験しておきたいことをボランティア中心に伝える内容となっている。

課題はあるが、学生の心にボランティアの素晴らしさを伝えていくために、試行錯誤しながら、日々学生スタッフはアイデアを出し合い、新たなことに挑戦している。ボランティアを身近に感じ、時間を作って誰かのために行動できる学生が一人でも多く増えるように私たち学生スタッフはサポートしていきたい。

【文責：教育学部教育学科 4 年 黒田 ゆかり 現代日本社会学科 3 年 出口 真太郎】

2. ボランティアルーム企画・活動報告

HELLO!!ボランティア 活動報告

1. 目的

学生の中には、ボランティアに興味があるが、ボランティア活動の参加に対し不安があり一歩踏み出せない学生もいる。そのように不安を抱えている学生が一人でも多く「ボランティアに参加したい」と一歩踏み出してもらえるように、またそういう学生の背中を押せるような機会にしたいと考えこの企画を開催した。

2. 活動内容

開催日 : 5月25日(月)、6月2日(火)

場所 : 712 教室

企画者 : 教育学科4年 黒田ゆかり、大谷奈都希
現代日本社会学科 4年久保圭

参加人数 : 5月25日(月)4名、6月2日(火)8名 計12名

- 内容 : 1. 付箋にボランティアに対するイメージや不安を書き、黒板に貼る。
2. その中でグループわけをする。
3. 自己紹介ゲームをする。
4. 実際にボランティアに行った学生に、質問形式でボランティアに行って経験したこと、感じたことを発表してもらう。
5. 質問タイム
6. ボランティア情報
7. まとめ

3. 活動報告

まず初めに本企画の目的を発表した。次に、ボランティアに対するイメージや不安を付箋に記入した。参加者は、1枚ずつだけでなく、何枚も記入していた。次に記入してもらった付箋を、イメージと不安に分けて黒板に張った。また、イメージと不安の中でもおおまかに分類した。付箋の内容は以下の通りである。

ボランティアに対するイメージ	ボランティアに対しての不安
・人の役にたてる ・将来に役立つ ・成長できる ・自分のためになる ・社会勉強 ・多くの人とかかわることができる	・一人では行きにくい ・初めての人と話すこと ・何をしたらいいかわからない ・行き方、交通費 ・障害をもった方、子どもへの接し方

付箋の内容を全体に説明した後、不安要素に最もあげられたコミュニケーションに対する不安を解消するための自己紹介ゲームを行った。ただ自分の自己紹介をするのではなく、何分間に何人の人と自分との共通点を見つけることができるかというルールである。初めは緊張しても相手と共通点を見つけることで会話がはずみ、それぞれが自由に立ち歩き、参加者やボランティアルームの学生スタッフで交流した。

次に、実際にボランティアに参加した学生からボランティアの体験や感想などをインタビュー形式で話を伺った。現代日本社会学科4年生の山根あさひさんは、三重県警若樫サポーターに参加した話をしてくれた。「福祉の視点から警察官になりたいと考えていた。そのことを、先輩に相談したところ、このボランティアを紹介され参加した。初めはボランティアに対してたくさんの不安があったのだが、活動を通して同じ目標に向かって頑張って達成感を得る中で、少年たちと絆が生まれ自然と解消されていった。『今日楽しかった、ありがとう』と笑顔で言ってもらえたことがとても嬉しかった」と発表してくれた。教育学科4年生の山口大貴さんは、「ボランティアに行きたい気持ちはあったが、一人だと不安でなかなか行く勇気がなかった。でも、友達であるボランティアルームの学生スタッフと一緒にいこうと声をかけてもらい初めて福祉系のボランティアに参加した。その時に、利用者さんにありがとうと言ってもらえたことが喜びとなりだんだんと一人で行けるようになった」と話してくれた。他にも、ボランティアルームの学生スタッフの教育学科3年生の内藤悠さんが海外ボランティアについて、教育学科1年生の川村涼太郎さんがフェアトレードのボランティアについて発表した。発表後、質疑応答を行った。参加者からは、「参加してよかったなと思ったことは何ですか?」「失敗したらどうしようなど不安はありませんでしたか?」など質問があった。その後、近日中に行われるボランティアの紹介をした。最後に、アンケートを記入していただき、企画は終了した。

4. 参加者からの意見(アンケートより)

《参加して学んだことは何ですか》

- ・ボランティア活動後、周りに話をして ボランティア先での状況を伝えることが大切である。
- ・人気のボランティアが何か分かった。

《今後どのような企画に参加したいですか》

- ・今回のようなコミュニケーションがとれる企画
- ・子どもとふれあえる企画
- ・多くの人と関われる企画
- ・障がいの人と関われる企画
- ・ボランティアでの体験を話せる企画

《企画に参加した感想》

- ・ボランティアで経験した話を聞いて、考え方が増え、良い刺激になった。

- ・雰囲気がとても楽しく充実した時間を過ごせた。
- ・自分を変えるためにも、どんどん 新しいボランティアに参加してみたい。
- ・人のために自分が役立てることがとても嬉しかった。(発表者)
- ・下の世代に伝えていきたいので、このような企画をしてもらえて嬉しかった。(発表者)

5. まとめ・反省

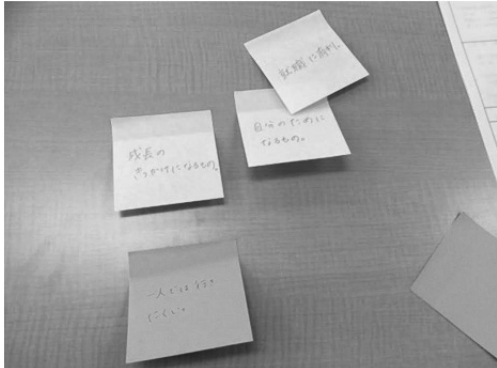
ボランティアルームの企画として、ボランティアの参加者の声を聞くことができる企画は、2年ぶりの企画だった。企画者自身、この企画を行ってよかったと思える企画だった。理由は、2つある。1つは、ボランティアに参加した学生の話の聞いたことである。普段ボランティアルームのスタッフが学生にボランティアの良さをコーディネートや企画などで伝えているが、なかなかボランティアに参加した学生からの感想を聞けることは少ない。昨年度あたりから、「ハートの木」というボランティアに参加した感想をハートの紙に書いてもらい、ボランティアルームの壁に張っていくということも行っている。しかし、学生自身の生の声を聞くことは少ない。実際に参加した学生からの発表は、ボランティアの内容やボランティアに行く前と行った後の気持ちの変化など、文章で読むよりも心に響いた。それは、この企画に参加した学生が発表者に対し多くの質問があったことから理解できる。

2つめは、学生のボランティアに対する気持ちを聞いたことである。イメージとしては「就職に役立つ」「自分のためになる」と言ったプラスの意見が多いのにも関わらず、参加者からたくさんの不安要素があげられた。一般学生がボランティアに対してどんな不安を抱いているのか聞いたことで、これからその不安をどう解消していくかという課題を発見することができた。例えばボランティア活動の内容についての不安は、今回の企画のような実際にボランティアに参加した学生の感想を聞く機会を増やしていくことで解消されていくのではないかと考える。

反省点としては、参加してくれた学生がその後ボランティアに参加したかどうかまで把握できていなかったことである。この企画から参加者が増えたら次に発表してくれる学生ができ、また新しくボランティアに参加する学生も増えるだろう。「HELLO!! ボランティア」の企画に参加→ボランティア参加 →ボランティア報告会という流れにつなげていきたいと考える。

この企画は参加者が少ない企画ではあるが、次につながる大切な企画である。参加者の増員も考えていく必要があるが、ボランティアに対し不安を抱いていてもこの企画から一人でもその不安を乗り越えボランティアに参加する学生が増えるようこれからも企画を考えていきたい。

6. 活動写真

	
ボランティアのイメージを考える	意見の共有
	
付箋の内容(一部)	参加者の発表
	
参加者の発表	

【文責：教育学部教育学科 4 年 大谷奈都希】

倉田山清掃企画 活動報告

1. 目的

私たちが日頃生活している場所は倉田山というところになる。ここにはたくさんの学校がひしめき、多くの学生や生徒が日中を過ごしている。日頃から生活している倉田山を清掃して、リフレッシュすることをこの企画の目的とした。この企画に参加したことによって、ボランティアのやりがい等を感じてもらい、次の参加を促していきたい。また、皇學館中学校・皇學館高校・皇學館大学の3校が連携しながら、清掃活動を行うことによって、相互の交流を図り、合同での地域貢献につながることを考えている。

2. 活動概要

開催：平成27年11月21日（土）13：30～16：30

内容：皇學館中・高・大の生徒・学生が5班に分かれて清掃活動行う。

場所：722教室

往路：皇學館大学→倉田山球場→伊勢警察署前→伊勢消防署前→宇治山田駅周辺

復路：伊勢郵便局前→徴古館→皇學館大学

参加者数：総数64名

（皇學館中学校：33名 皇學館高校：17名 皇學館大学：14名）

担当者：西村友希 高奥命 大和田野澄香 川村亮仁 柘植美早

教員：5名

3. 活動報告

今回ボランティアルーム主催の企画で、皇學館中学校・皇學館高校・皇學館大学が連携するのは初めての試みである。そのため中学校・高校においては、部活単位で参加生徒を募るようお願いし、大学においては食堂や季刊誌等を使い、告知回数を増やすように心がけた。当日は総勢64名の参加者を得ることができた。参加者それぞれ目的意識を持っており、積極的に活動していた。

各班が時間差を使いながら左右に分かれるなどして宇治山田駅周辺まで清掃活動を行った。参加者はお互い会話をしながら楽しく清掃活動を行った。往路は所要時間約45分で途中休憩を入れた。復路は所要時間約30分であった。車や自転車の通りが多い道を通るので、声かけ等の安全確認には十分に配慮して活動を行った。思っていたよりもコースが長かったためか、参加者からは「疲れた」などの声も聞こえた。地域清掃を行っている間、大学の家庭科室で活動後に出す焼き芋の調理をスタッフと教員が行った。

大学到着後、各班それぞれがゴミの分別を行い、その後 722 教室でジュースと焼き芋を食べて休憩を取りながらアンケートに回答してもらった。各班、清掃活動後も仲良く会話する様子が見られた。

ゴミの集積具合は、燃えるゴミが約 3 袋、燃えないゴミが約 2 袋でその他に傘があった。「意外にゴミが多かった」といった声があったように、多くのゴミを集めることができたと思う。

・当日の流れ

時間	活動	詳細	備考
13 : 35	参加者集合	中学生着替え等 各班の交流 活動の注意点等の説明	
13 : 55～ 16 : 10	地域清掃 お芋の調理	皇學館大学→倉田山球場→伊勢警察署前→伊勢消防署前→宇治山田駅周辺 伊勢郵便局前→徴古館→皇學館大学の順に清掃を行う。	往路 約 3.5 k m 所要時間 48 分 ※休憩（お手洗い等） 復路 約 2.0 k m 所要時間 30 分
16 : 30	解散	ゴミの分別 お芋とジュース アンケート	燃えるゴミ：約 3 袋 燃えないゴミ：約 2 袋 傘等

4. 参加者からの意見

<中学・高校生>

- ・捨てることは簡単だが、拾うことは大変だと分かった。
- ・また参加したい。
- ・年齢の違う人たちと接する良い機会であった。
- ・通学路がきれいになって良かった。良い経験になった。
- ・地域のためになったと思う。

<大学生>

- ・ボランティア活動が有意義なものだと改めて気付いた。
- ・ボランティアは自分を成長させてくれる。
- ・地域の人と活動を通して交流することもでき、清掃活動の主旨や意義・熱意が伝わった

んではないかと感じた。

- ・ボランティアスタッフの方々が丁寧にサポートしてくれたので安心して活動できた。
- ・今後も様々なボランティアに参加したいと感じた。

<改善してほしい点>

- ・人数が多く道幅いっぱいに広がってしまうことがあったので人数調整が必要。
- ・他の歩行者に道をあけるのが遅い時があったのでもう少し早く動いた方がいいと思う。
- ・班ごとならもう少しコースが多くても良い。距離が長かった。

5. まとめ・反省

倉田山清掃という初めての企画であったが、目的にあるように倉田山とその周辺の清掃をすることによって、私たちの生活環境を綺麗にすることができ、同時に環境も私たちもリフレッシュできたと考えている。また、中学生、高校生、大学生という三世代の若者が集まっただけの活動となったわけだが、相互にコミュニケーションもとることができたと感じている。始めはおぼつかないところもあったようであるが、大学生から積極的に話しかけていたことが良かったように見ている。この点でも目的が達成され、地域への影ながらの貢献ができたのではないかと感じている。

企画に携わる 3・4 年生がなかなか集まれず、準備を進めることができなかった。また、1 年生に中高生向けと高校生向けの 2 種類のポスターを作成してもらったが、いきなりのことで 1 年生もどのように作っていいかわからず、困惑させてしまった。私たちが明確に掲示物の作成の仕方等を示すべきであったと考える。また、事前準備の進行具合等の全体共有も不十分であった。

当日は、参加生徒・学生の人数に比べてスタッフが非常に少ない状態であった。そのため、各班に参加生徒が 10 名いるなかでスタッフを 2 名しか配置できなかった。また 1 年生に班のリーダーを任せる、コースが把握できていないスタッフにリーダーを任せるといった状況になってしまった。また、登下校時間の関係で非常に少ない時間の中で企画を進行していった。そのため、焦って進行してしまい余裕がなかった。

そういった状況の中でも、参加者がこの企画に参加したことによって、ボランティアのやりがい等を感じていただいたようで、今回の目的でもあったボランティア促進に少しでも近づくことができたと考える。また、ボランティアルームとして初めての試みである 3 校が連携して地域貢献を誰一人怪我することなく終えることができ、これからの繋がる企画であると考えている。

まだまだ力不足で、多くの方々に助けていただいた。今回の企画を無事終えることができたのも、数々の困難がありながら実施することができたのも多くの方々のおかげである。感謝の気持ちを忘れず、より一層ボランティアの良さを知ってもらうために企画していきたい。

6. 活動風景



清掃活動風景



清掃活動風景



清掃活動風景



活動後風景

【文責：現代日本社会学部現代日本社会学科 4 年 西村友希】

市民活動 YOUNG フェスティバル 活動報告

1.目的

ものづくりに取り組む市民・団体や伊勢市の未来を担う若者が、日頃取り組んでいる活動の成果の発表や体験教室などを開催する 「市民活動 YOUNG フェスティバル」(以下、ヤングフェスティバルに略す)が開催された。このヤングフェスティバルで今年度の活動報告を通して地域の方々にボランティアルームについて知ってもらう事や多くの地域団体と関わり、意見交換することを目的として参加した。また、本学の部活動・サークルに参加を呼びかけ、ボランティアルームとの今後の連携を深めていくことも目的とした。

2.活動内容

日時：平成 27 年 12 月 6 日（日） 10 時 00 分～16 時 00 分

場所：いせ市民活動センター 北館いせシティプラザ全館

主催：いせ市民活動センター

後援：伊勢市、伊勢市社会福祉協議会

内容：ブースを出展し、立ち寄っていただいた方々にボランティアルームの活動について写真アルバムや過年度の活動報告書・季刊誌・パンフレットなどを用いて説明を行った。

3.活動報告

ヤングフェスティバルでは、ブースを出展し、立ち寄っていただいた方々にボランティアルームの活動について写真アルバムや過年度の活動報告書・季刊誌・パンフレットなどを用いて説明を行った。皇學館大学にボランティアセンターがあることを知らなかった方々からは、その場でボランティアを依頼してくださった。反対に、ホームページや SNS を通じて当ルームのことを知っている方もおり、応援の言葉をいただいた。この活動では部活動・サークルにもスタッフが参加を呼びかけ、今回は奇術部・アンサンブル部・ダンスサークル・落語研究会が協力して参加してくれた。

4.参加学生（部活動・サークルの感想）

・ヤングフェスティバルで演奏させてもらってとっても楽しかった。会場にいた人たちがみんな優しくて幸せでした。貴重な演奏機会だったので、とても嬉しかったです。

・地域のいろんな団体、学内の他部によるブース出展や舞台発表を見ることができ、自分達の刺激にもなりました。また機会があれば参加したいです。

・学外で発表させてもらうのは 2 回目だったので、緊張しましたが、観てくれるみんなが笑顔で楽しそうだったので、楽しく自分らしいダンスを披露できました。お誘い頂いたルームの皆さん、ありがとうございます。

・ヤングフェスティバルには、初めて参加させていただいたのですが、若者は勿論、大人の方も活気があり、大変良い刺激になりました。ステージでマジックを疲労したとき、拍手をくださる皆様からとても暖かな気持ちをいただきました。このような活動は地域を活性化させるためにも良い機会だと思います。

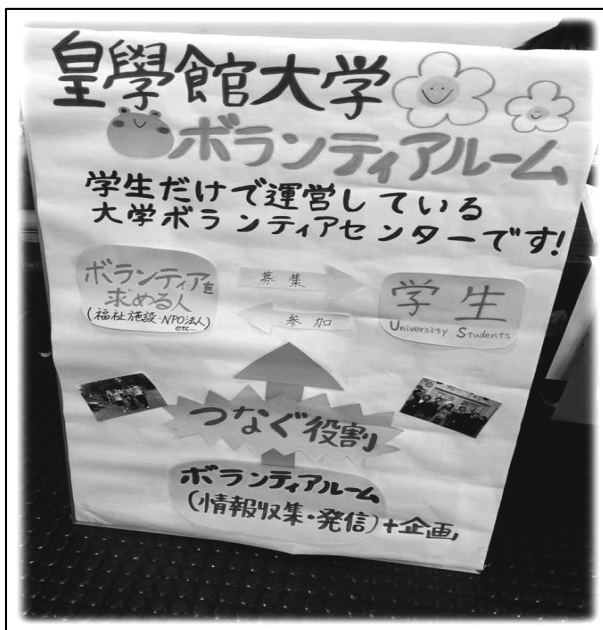
・日頃大勢の前で発表することがないのでこのような機会を与えてくれてありがとうございました。

5.まとめ

反省点として、ボランティアルームに興味を持った方に対して 4 年生が説明する機会が多くなってしまった点である。1 年生にボランティアルームの仕組みなど、説明が出来る機会をつくるように配慮すべきだったことが挙げられる。また、1 年生も分からないことが多く、4 年生に頼りすぎていたと感じている。もっと自分たちで説明できるようにならなければならないといけなことを痛感した。活動中の反省としてはスタッフが「待つ」ということが多かったためもっと自分たちから動いて様々な団体の方とコミュニケーションをとれたらよかったと感じた。

反省点ばかりではなく、ブース出展したことで、地域の人々・団体さんにボランティアルームがどういうものなのかを知ってもらえる良い機会になったと思った。さらに新たな出会いがあり、新たな依頼があったことも良かった点として挙げられる。ボランティアルームが今回のイベント活動を通して、当ルームと学内の部活動・サークル、双方にとってプラスの関係を築くことができた。部活動・サークルにとって貴重な学外発表の場となり、地域と学内の部活・サークルをつなぐ役割ができたこと、地域の方々団体の方たちにボランティアルームの活動報告をすることができ、ボランティアの依頼にもつながったことがこの活動に参加した成果になったと感じている。

6.活動風景



【 文責： 教育学部教育学科4年 川村亮仁 】

松阪福祉祭り 活動報告

1. 目的

公的サービスでは対応が難しい地域の福祉課題を解決するために、松阪市では住民協議会や地区福祉会などを中心に地域での見守りや助け合い運動が広がっており、福祉の心や地域の力は今後さらに高まるものと期待し、またこれまで社会福祉の向上にご尽力され、多大な功績を残された方々を顕彰し、感謝の意を表するために開催した。フェスティバル部門においては展示・体験・ステージを通して地域活動やボランティア活動の紹介をおこなう。

ボランティアルームとしての目的は老若男女全ての年代の方々と交流を通して、皇學館大学ボランティアルームの認知を広げることである。

2. 活動内容

日時：平成 27 年 12 月 6 日（日）

10 時 30 分～15 時 30 分

場所：松阪三雲コミュニティセンター

対象者：老若男女幅広い世代の方々

担当者：出口真太郎 河口比加里 伊藤俊介 川口真奈

千葉星佳 林佳那 林雅也 山口遼

内容：福祉体験(車いす体験、視覚障がい者体験)、ごみ釣りゲーム、昔遊びのブースを出展した。

3. 活動報告

ごみ釣りゲームによる分別の知識付け、子ども達に昔の遊びを知ってもらうためけん玉やこま、ヨーヨー遊び、福笑いによる昔遊びの体験、車いす体験、視野狭窄メガネ・目隠しによる福笑いや物を当てるゲームで福祉体験を行った。最後に記念品としてお菓子のつかみ取りを実施した。

小学生以上を対象としてゲームを設定していたが小学生以下の参加者も多かったため、ごみ釣りゲームの分別は難しかったように見えた。しかし、楽しそうに幼児たちも参加していたと感じる。けん玉やこま、ヨーヨー遊び、福笑いなどの昔遊びは、上手くできないことが悔しいようで、できるまで繰り返し挑戦していた。また年配の方もたくさん体験しに来ていただいた。できない子ども達に年配の方々も一緒にやり方を教えてくださるという形になり、様々な年代の交流が見ることができた。

車いすや視野狭窄メガネなどの福祉体験は、自らが障がい者の体験をすることにより障

がい者について理解することを目的としている。車いす体験では行きたい方向へなかなか進まずに苦戦する子や、すぐにコツを掴んで進む子もいた。視野狭窄メガネでの福笑いや、目隠しで物を当てるゲームでは見えないことの苦勞をしているように見えた。

一つでも体験をした方には、最後にお菓子の掴み取りを行った。子どもはとても喜んでおり、大人の方は少し恥ずかしそうにしながらも掴み取りをしていただいた。またボランティアルームについて興味を持っていた保護者の方や年配の方には自作のボードを使ってボランティアルームについて説明した。

4. 参加者からの意見

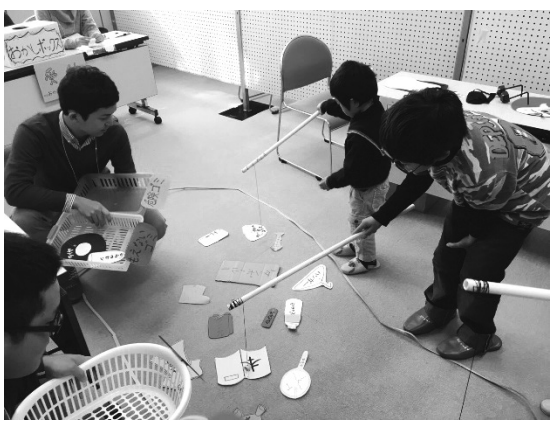
- ・幅広い年代の方と関わることが出来るいい機会だった
- ・老若男女全ての人が楽しんできて良かった
- ・たくさんの人の笑顔を見ることが出来た

5. まとめと反省

目的の老若男女幅広い年代との交流により、ボランティアルームの認知をたくさんの人に広げられたのではないかと考えている。ボランティアルームの活動に関心を持ち、ぜひ利用したいという方から資料を頂き新しいつながりができたのではないかと考える。このつながりを今後さらに深めていきたい。松阪福祉祭りには初めての参加だったが、どのような雰囲気なのかを知ることができ、次回の勉強になった。

反省は、もっと事前に飾り付けを作成し、準備をしておく必要があった。特に、多くの人の目につくような大きな看板が必要だったのではないかと感じた。さらに体験のものだけでなく、ボランティアルームの紹介をもっと積極的に行っていく必要があった。また、けん玉やこまの数が少なかったため、待ち時間を作ってしまった。

参加者からの意見や自分たちの反省を活かして、また松阪福祉祭りに参加させていただけるように次回につなげたい。

	
ブース	ごみ釣り
	
車いす体験	お菓子掴み取り
	
こま遊び	紹介ボード

【 文責：教育学部教育学科 1 年 千葉星佳 林佳那 】

ボランティアルーム季刊誌 活動報告

1. 目的

これまでボランティアルームでは、ボランティアや企画への参加者の感想を学生へ伝える機会は少なかった。そのため、参加者の感想を知ってもらう機会をつくった。また、スタッフお勧めのボランティアを新たに作り、発信した。

これにより、今までにボランティアに興味の無かった学生がボランティアルームを訪れるきっかけ作りと、ボランティアへの参加促進を目的とした。

2. 活動内容

平成 27 年度は 3 号のボランティアルーム季刊誌を発行した。

①夏号 発行月：6 月

発行部数：20 部 配布部数：11 部

内容：季刊誌の説明、Hello ボランティアの報告、サマースクールの紹介、6～8 月のボランティア一覧、スタッフお勧めのボランティア

②秋号 発行月：10 月

発行部数：20 部 配布部数 16 部

内容：サマースクールの報告、倉田山清掃企画の紹介、倉陵祭での模擬店の案内、10～11 月のボランティア一覧、スタッフお勧めのボランティア

③冬号 発行月：2 月

発行部数：20 部 配布部数：8 部

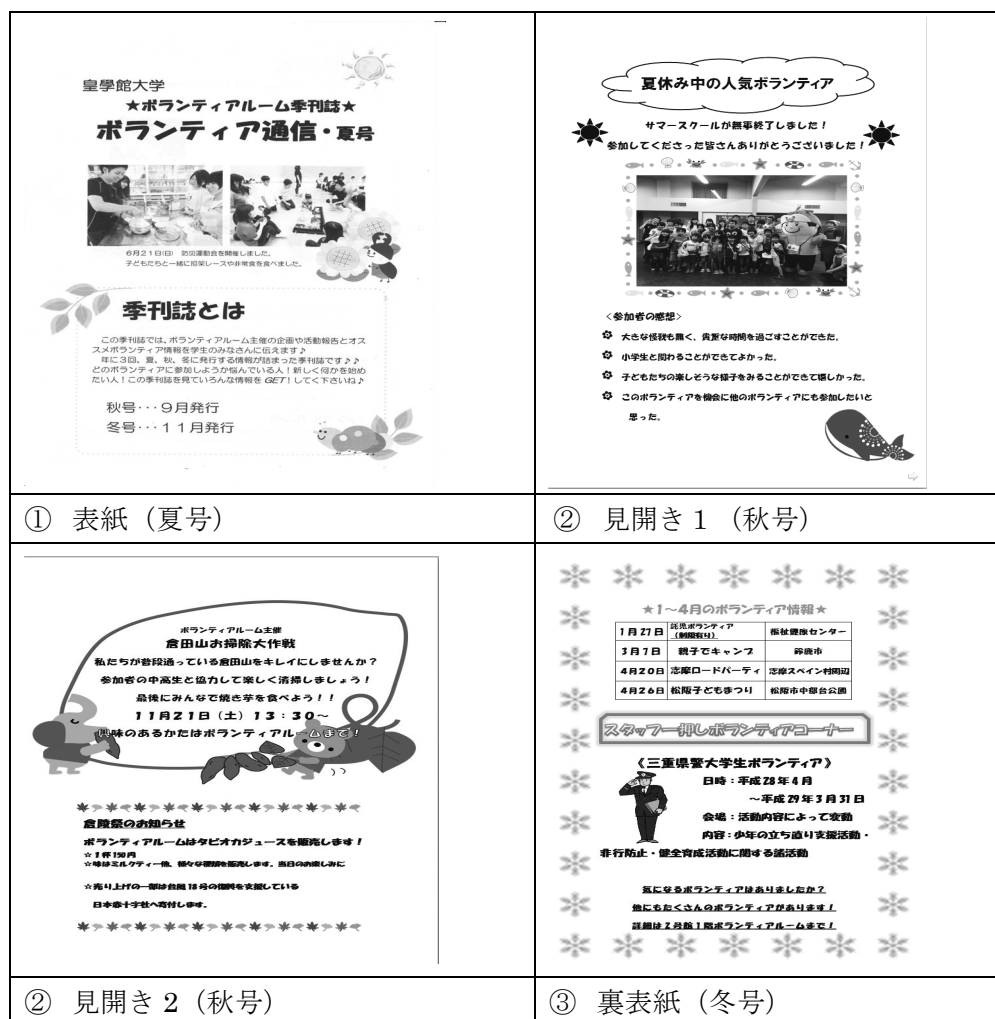
内容：倉田山清掃企画の報告、倉陵祭の売り上げの寄付の報告、1～4 月のボランティア一覧、スタッフお勧めのボランティア

3. 活動報告

今年度夏、秋、冬号と発行したボランティアルーム季刊誌（以下季刊誌と略す）は、昨年度毎月発行していたボランティア通信を基に、より内容を密にしたボランティアルームの情報誌である。ボランティアルームの掲示板やボランティアルーム内に配置し、手に取りやすいようにポップを作成した。

各号によって内容は異なるが、企画の紹介・報告、ボランティア一覧、スタッフお勧めのボランティアを掲載した。企画の紹介では、これから行われる企画の日時や内容を掲載した。企画の報告では、発行月より前に行われた企画を紹介し、参加者の感想や様子を掲載した。また、ボランティア一覧は募集名、日付、場所を表にしたものである。ボランティアルームの掲示板は、日付順に掲載されていないため、ボランティア一覧では、いつでもボランティアがあるのかがわかりやすいようにした。

4. 各紙面



5. 反省と課題

① 発行日について

季刊誌を統括するスタッフがおらず、各号のスタッフが独自に発行日や記事の締め切り日を決めたため、曖昧になった。また、冬号では発行の手続きに不備があったため、発行が大幅に遅れた。そのため、配布部数が伸びなかった。これは、発行の進捗状況を常時確認していれば、早期に解決できたと考える。

② 掲載内容について

担当するスタッフが発行月ごとに違ったため、掲載内容やレイアウトにバラつきがあった。また、担当スタッフが携わっていない企画の記事は内容が薄くなりがちであった。

2、3ヶ月分のボランティア一覧の作成を目指した。しかし、発行月の時点ではボランティア募集依頼が来ていないことが多かったため、掲載は4、5件と少なかった。

③ 発行部数と配布部数について

夏号は昨年度の発行部数の平均の 20 部にした。夏号はボランティアルーム内の配布部数が伸びなかったため、秋号ではボランティアルーム内の掲示部数を減らし、2 号館、6 号館の掲示にあてた。そのため、夏号より配布部数が伸びたと考える。また、冬号は発行日が遅く、1 ヶ月ほどの配布期間であったため、8 部と伸びなかった。

また、ボランティアルームが主催した企画である倉田山清掃企画の詳細を掲載した秋号は、配布部数が 16 部であった。そして、この倉田山清掃企画への参加学生は 14 名であった。昨年度のボランティア通信・11 月号も同様にボランティアルーム主催の企画の詳細を掲載した。これは配布部数が 7 部であり、企画への参加学生は 8 名であった。配布部数と参加学生数より、季刊誌は企画への参加促進に繋がったと考える。

6. まとめ

今年度は年に 3 回の発行により、昨年度に比べて各号の内容が濃いものになった。さらに、掲示期間が昨年度に比べて長かったため配布部数が伸びた。また、各号の担当スタッフが違ったため、企画やその他の業務に積極的に関わる事ができた。その反面、掲載内容やレイアウトにバラつきがあった。そして、統括するスタッフがいなかったため、発行の手続きに不備があった。

来年度からは季刊誌を統括するスタッフをもうけ、掲載内容や発行日を明確にしたり、企画の記事は企画に携わっているスタッフが担当したりするなどの改善が必要である。季刊誌は学生にボランティアの魅力や、ボランティアルームの活動内容の発信に効果的であるため、これからも重要なツールとして活用していきたい。

【文責：現代日本社会学部現代日本社会学科 3 年 高奥 命】

平成 27 年度年間反省会 活動報告

1. 目的

平成 27 年度のボランティアルームの活動について、学生スタッフがコーディネート業務や企画についての反省を行い、次年度へ活かすことを目的としている。また、お招きしたボランティア団体の方や社会福祉協議会の方と、「どうしたら学生がボランティアに興味を持つのか」「ボランティア活動の一步目を踏み出せない学生に対し我々にできることは何か」についての意見交換をする時間を設け、今後のボランティアルームの企画や学生へのサポート力の向上を目指した。

2. 活動内容

日時：平成 28 年 2 月 4 日（木）

時間：14 時～16 時

場所：711 教室

招致団体：三重県社会福祉協議会ボランティアセンター・伊勢市社会福祉協議会・

松阪市社会福祉協議会・伊勢志摩バリアフリーツアーセンター

企画者：大谷奈都希・黒田ゆかり・内藤悠・出口真太郎・坂元美咲

日程：

- ① 代表あいさつ（出口真太郎）
- ② コーディネート報告（内藤悠）
- ③ 今年度の取り組み
 - ・季刊誌（高奥命）
 - ・倉陵祭（内藤悠）
 - ・ネパール大地震救援募金活動（出口真太郎）
- ④ 企画
 - ・HELLO！ボランティア（大谷奈都希）
 - ・防災運動会（内藤悠）
 - ・倉田山お掃除大作戦（西村友希）
- ⑤ 連携
 - ・サマーボランティアスクール（河口比加理）
 - ・松阪福祉祭り（山口遼）
 - ・伊勢市民活動 YOUNG フェスティバル（久保圭）
- ⑥ 交流会
- ⑦ 代表あいさつ（大谷奈都希）
- ⑧ 教員あいさつ（叶俊文 教授）

3. 活動報告

今年度は、日頃から多くのボランティア依頼をして下さる三重県社会福祉協議会ボランティアセンターをはじめとする4つの団体にお越しいただいた。

まず学生スタッフを代表して3回生の出口真太郎が、お越しいただいた方々に1年間の感謝を伝えるあいさつをし、各発表へと移った。

コーディネート報告では、今年度のボランティア依頼件数やコーディネート件数などについて報告した。その中で、今年度のボランティア参加者の特徴を「こども系と福祉系のボランティア参加人数が減少し、地域系のボランティア参加人数が増加した」という結論を述べ、その理由を「こども・福祉系ボランティアについては、ボランティアルームの宣伝が不足しており、地域系ボランティアについては部活やサークルとの連携を積極的に行い、上手く繋げることができたのが大きな理由である」と発表した。その後の質疑応答では、リピーターを増やす為にボランティア初心者を中心にアフターケアをしていくなどのアドバイスを頂いた。

ネパール大地震救援募金活動の質疑応答にて伊勢市社会福祉協議会より、学外で募金活動をしてはどうか、場所取りや募金箱の貸し出しに協力できると仰っていただいた。今後募金活動をする際には、学内だけでなく学外でも行い、一般学生にも参加してもらえるようにしたいと思う。

全ての活動報告後、昨年度と同様に来ていただいた方と学生スタッフを5つのグループに分け、「どうしたら学生がボランティアに興味を持つのか」「ボランティア活動の一步目を踏み出せない学生に対し我々にできることは何か」というテーマに沿って意見交換した。最後に各グループで話し合ったことを発表し、意見を共有した。

普段あまり聞くことのできない貴重な話や、社会の第一線で活躍する方だからこそ思いつくアイデアを出していただき、学生スタッフにとって非常に良い刺激になった。以下はその内容である。

・三重県社会福祉協議会ボランティアセンター

HELLO!ボランティアの後、参加してくれた学生と学生スタッフでボランティアに参加してみてはどうか。ボランティア初心者に感想を聞き、おススメのボランティアを紹介するなどのアフターケアをしてはどうか。

・伊勢市社会福祉協議会

募金活動など、ボランティアルームともっと協力していきたい。具体的には、募金活動場所の確保・募金箱の貸し出し・子どもを呼び込む手伝いなど。

・松阪市社会福祉協議会①

参加希望者の友人にも声をかけてもらい、参加人数とリピーターを増やしていくべき。

学生の柔軟なアイデアは、サマースクールだけでなく、いろいろな場面で参考になってありがたい。

・松阪市社会福祉協議会②

情報共有ツールとしてLINEを使っていくと良いと思う。(ボランティアルームの公式アカウントを作る)

年間反省会が年々良くなっている。

・伊勢志摩バリアフリースターセンター

メールを見る学生が少ないなら、LINEを活用してはどうか。LINEのスタンプを作るのも、学生の関心を高める上で良いアイデアだと思う。

代表あいさつでは、4回生の太谷奈都希がこれまでの感謝と今後のボランティアルームの活動を温かく見守っていただけるようお願いした。

教員あいさつでは、叶俊文教授が現在のボランティアルームへの依頼件数が徐々に減少してきている状況について話した。また、社会福祉学部の学生から直接引き継いだ年代が今年で卒業し、来年度からまた新たなボランティアルームとなり、間違いなく大変な年になることなどの話しをしていただいた。

4. 総括

今回の年間反省会では、昨年度の反省を活かし社会福祉協議会の方々との交流の時間に重点を置いた。年々、ボランティアの依頼件数や参加学生数が減少している現状を変えるため、外部の方からの客観的なご意見を頂きたかったからである。

年間反省会後のスタッフの反省会の中で、ボランティア依頼件数に関しては、学外に広くボランティアルームの存在をアピールすることが今後の課題として挙げた。その方法として、社会福祉協議会などにボランティアルームの紹介チラシを持っていくことや、学外での活動を活発に行い存在を知っていただくきっかけにすることを、来年度行っていきたい。参加学生数の向上については、学生がボランティア情報を受け取るメール配信と掲示板の改良が課題として挙げた。メール配信は、一目でボランティアに関心がわくように件名を使って一言でボランティアの魅力を伝える工夫等を話し合うことができた。掲示板に関しては、ボランティア情報が書かれた紙を学生が受け取れるような工夫や、写真等を使用することによって内容に親近感を持ってもらう工夫などを来年度から行っていきたい。

今回の年間反省会を経て、スタッフ自身改めてボランティアルームに必要な改善点について考えるきっかけになった。叶教授のおっしゃっていた通り、新世代の力が試される年になる。その年にスタッフ自身で改善点に気づき、最良なカタチにしていくことができるよう、年間反省会で頂いたたくさんのご意見を来年度に生かしていきたい。

【文責：現代日本社会学部現代日本社会学科 3年 出口真太郎】

倉陵祭模擬店 活動報告

1. 目的

ボランティアルームを外部の方に知ってもらい、ボランティアの依頼件数の向上を目指すと共に、学生にもボランティアルームの存在をさらに知ってもらい身近なものとして感じてもらうことを目的とした。同時に、スタッフ間の連携を通しての結束力の向上を図った。

また、模擬店の売り上げ金の一部を、「日本赤十字社」に寄付をして役立ててもらいたいと考えている。

2. 活動内容

開催日：平成 27 年 10 月 30 日(金) 17:00～19:00

11 月 1 日(土) 10:00～19:00

2 日(日) 10:00～16:30

場所：皇學館大学 9 号館前 芝生広場

内容：倉陵祭で模擬店を出し、タピオカジュースの販売をし、純利益の 7 割を寄付する。

販売物：タピオカジュース

販売値段：100 円/1 杯

販売者：ボランティアルームスタッフ

企画担当者：内藤悠、横山有弥、林雅也、伊藤駿介

3. 活動報告

今年はタピオカジュースの販売を行った。原材料が安いこと、飲み物の需要が高いこと、作り方が簡単なことから、今年度は初めての飲料販売であった。タピオカは 700 食分用意し、3 日目の日中にはタピオカが売り切れ、ジュースのみの販売になったが終始大盛況に終わることが出来た。ジュースの必要数がどうしても変動してしまうため、買出しを複数回に分けたことにより、負担がかかってしまった点が反省点である。

また、ボランティアルームについて知ってもらう工夫として、机横にパンフレットを用意して、学内外への周知を行った。

売り上げ総額は 126,000 円となった。純利益は 55,343 円となり、7 割の 38,743 円を日本赤十字社に寄付した。

収支の詳細については下図に示す。

支出

タピオカセット（700 食）	37,000 円
ジュース（162 本）	24,657 円
出店料	9,000 円
合計金額	70,657 円

収入

売り上げ金	126,000 円
合計金額	126,000 円

支出	70,657 円
収入	126,000 円
純利益	55,343 円

4. 反省

内容量が均一になるよう量って販売していたが、タピオカとジュースの不足が多く、買出しに何度も行くことになり、販売担当のスタッフの仕事量が増えてしまったことが、反省として挙げられる。また、買出しに行く車も足りなかったので、来年は 2 台以上の申請が必要だと感じた。

昨年度はレジ付近に募金箱を設置していたが、今年度は大学への手続きが遅れた為に募金箱を設置することが出来なかった。

来年からはボランティア自体に興味を持ってもらえるように、ボランティア紹介のパネル作成等を行っていきたいと考える。

5、活動風景



【文責：教育学部教育学科 3 年 内藤悠】

ネパール大地震救援募金 活動報告

1. 目的

現地時間 2015 年 4 月 25 日 11 時 56 分にネパールの首都カトマンズから北西 77km 付近にあるサウラパニを震源に地震が発生した。地震の規模はマグニチュード 7.8 であったと発表されている。この地震による、建物の崩壊・雪崩・土砂災害などにより甚大な被害が発生し、死者は約 8,500 人、負傷者は約 15,000 人に及んだ。

3.11 が起きた際、日本は先進国・途上国問わず、世界中の国々から温かい支援を受けた。ネパールからは、毛布等の支援を受けている。日本人が受けた支援と同じように、ネパールに支援することは当然のことである。そこで、皇學館大学から少しでも力になれるよう、我々で募金活動をして復旧のための支援をすることを目的とした。

2. 活動内容

・開催日：平成 27 年 5 月 13 日(水)12:20～13:00

14 日(木)12:20～13:00

15 日(金) 12:20～13:00

・場所：皇學館大学 食堂・購買前・芝生広場・6 号館 1 階外

・企画担当者：出口真太郎

3. 活動報告

まず、学生への宣伝方法としては、メール・twitter・ボランティアルーム前ホワイトボードを活用した。

活動の事前準備として、学内で募金活動をする為の許可書を大学に提出。また、集まったお金をボランティアルームで管理せず、保管から日本赤十字社への送金までの管理全てを、皇學館大学学生支援部に委託する誓約を交わした。

当日は、食堂・購買前・芝生広場・6 号館 1 階外の 4 箇所にて実施した。1 箇所につきスタッフは基本 3 人体制で行った。募金箱は 5 つ作成し、食堂に 2 つ、その他 1 つずつ設置した。食堂は多くの学生が利用すると考えられたため、スタッフと募金箱を他よりも多めに配置した。

募金参加人数は、3 日間で延べ約 280 名で、合計 34,622 円が集まった。募金に参加してくれた方の中には、3 日間連続で募金に参加してくれる学生や、教員・大学職員・大学でお弁当を販売しに来ている方たちも募金をしてくれて、関心の高さがうかがえた。

4. 総括

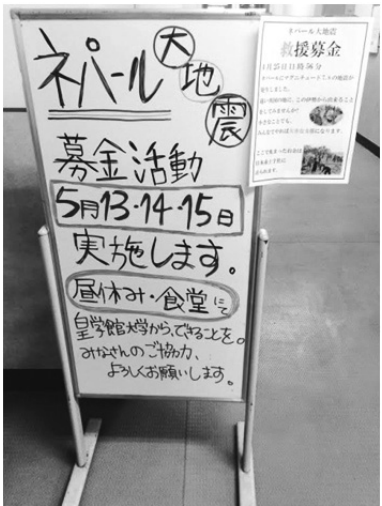
ボランティアルームでは、今まで様々な企画を行ってきたが学生の参加者確保が思うようにいかず、今回の募金活動もあまり多くの金額は集まらなと予想していた。しかし、予想を超える額のあたたかい気持ちが集まった。この結果は、ボランティアルームの今後の活動に大いに活かすことができると考える。

今回の活動を滞りなく進めることができた要因として、学校への各種申請・募金箱の作成・宣伝活動を速やかに行えたことが挙げられる。また、3日間募金を実施することにより、メールや掲示板を見ていない学生にも直接宣伝することができたため、多くの学生を巻き込むことができた。そして、今まで様々な企画を行ってきたスタッフの経験を上手く活かすことができ、全員で協力して準備・活動できた。

ボランティアルームとして、この活動から得られるものは多かった。具体的には、学外でのボランティア活動に抵抗がある学生でも、学内で行う活動であれば気軽に参加しやすいことが分かったこと。多くの学生にボランティア精神があり、身近に機会があれば参加することが挙げられる。

最後に、ボランティアルームでは海外ボランティアを扱っていないからこそ、このような活動を行うのは我々の責務であり、学生のニーズもあると感じた。今後も機会があればこのような活動を続けていきたい。

5、活動風景

	
震源地：カトマンズ	作成した募金箱
	
宣伝に使ったホワイトボード	活動するスタッフ①
	
活動するスタッフ②	活動するスタッフ③

【文責：現代日本社会学部現代日本社会学科 3 年 出口真太郎】

サマースクール 活動報告

1. 目的

サマースクールは今年度で 8 回目の開催となる。松阪市社会福祉協議会と合同で開催される企画で、夏季休暇中の松阪市内小学生を対象として宿題を教えたり、学生スタッフが考えた福祉をテーマとした企画プログラムを実施したりしている。今年度は「楽しく福祉を学ぶゲームラリー」をテーマに行った。

また、皇學館大学の大学生（以下、参加学生）が小学生と接することができるボランティアの一つであり、ボランティアルームの学生スタッフが仲介役となり松阪市社会福祉協議会と参加学生、そして子供たちをつなげることにより、子供との関わり方を考えることのできるプログラムになっている。

2. 活動内容

平成 27 年 8 月 5 日（水）、17 日（月）、25 日（火）の 10:00~17:00 に松阪市社会福祉協議会館にて、松阪市内の小学生を対象としたサマースクールを開催した。

午前は参加学生、学生スタッフともに会場設営した後、参加学生と学生スタッフのうち 2 人程度は小学生に勉強を教え、ほかの参加学生と学生スタッフはゲームラリーのリハーサルを行った。午後は学生スタッフのうち 2 人は料理ボランティアさんの準備を手伝った。ほかの参加学生と学生スタッフはゲームラリーを行った後、料理ボランティアさんたちと合流した。お菓子作りと試食会をし、ゲームラリーの景品を渡した後小学生は解散、参加学生と学生スタッフは会場の片付けと反省会をした。

また今回のサマースクールで活動の中心となったゲームラリーは、福祉にもっと触れられる機会を作りたいという松阪市社会福祉協議会さんの意向があったため、従来の工作の活動ではなく、福祉について楽しく学ぶことができるように考え企画したものである。

担当者：河口比加理、出口真太郎、柘植美早、川口真奈、千葉星佳、林佳那

3. 活動報告

午前中の会場設営は学生スタッフが主となって進めていた。また、会場設営後はゲームラリーのリハーサルをし、ブースの担当を決定した後、各ブースで確認を行い午後に備えた。勉強の時間を希望する小学生は少なかった。始めは参加学生と小学生ともに緊張した様子であったが、参加学生が勉強の指導とともに会話も交えることで昼食の時間には楽し

い雰囲気が出来上がっていた。

午後のゲームラリーは視覚障がい者体験の「目かくしゲーム」、車いす体験の「車いすリレー」、高齢者体験の「高齢者体験」、ゴミ拾い・分別体験の「ゴミ拾いゲーム」、昔遊び体験の「昔のおもちゃ体験してみよう」の 5 人のブースを設けた。参加学生は 1 つのブースに 2、3 人を振り分け、小学生は 2、3 人で 1 班にし、1 つのブースを 10 分に時間設定して行った。小学生は初めて体験することは慎重に、体験したことがあることは自慢げに楽しんでいるようだった。参加学生もはじめは関わり方に戸惑っている様子であったが活動していく中で徐々に小学生と上手に関わっていた。

その後のお菓子作りの時間には小学生と参加学生を 2 つのグループに分け、料理ボランティアさんと共に豆腐みたらし団子とヨーグルトケーキを作った。豆腐みたらし団子は火を使うので、火に近付くときは気を付けるように注意を促した。

<参加状況>

	8 月 5 日	8 月 17 日	8 月 25 日	3 日間合計
参加小学生	7	10	10	27
参加学生	5	7	9	21
学生スタッフ	9	9	8	26
合計	21	26	27	74

4. 参加者からの意見

サマースクール終了後、参加学生とともに行った反省会で参加学生に意見や感想を求めたところ、参加してよかったという感想を多く聞くことができた。はじめは小学生とどう関われば良いかわからず不安だったという参加学生の意見が多かったことから、小学生への声のかけ方などが難しく戸惑っていたことがわかる。その他にも将来教職に就くにあたってよい勉強になった、普段しないことが体験できてよかった、貴重な経験になった、もっと他のボランティアにも参加したいなどの意見や感想があり、参加学生は活動を通して考え、工夫することによって得られたものがあつた活動になったように思える。

小学生にアンケートなど意見を聞く機会は設けていなかったが、活動の様子や活動中の声かけから、参加学生との関わりで楽しんでいた様子や福祉について新たに学んだことがあつたということがわかった。

5. まとめと反省

今回のサマースクールはゲームラリーという初めての試みを行ったこともあり多くの反省があがった。

まず、ゲームラリーの企画から実施までの流れでは、平成 27 年 3 月から松阪市社会福祉協議会さんと連絡を取り始め、一度、担当者全員が顔を合わせ話し合った。しかし、細かい部分の準備は情報共有が疎かになり時間がかかった。担当者同士または松阪市社会福祉協議会さんともっと連絡を密に取り合うべきであったと思う。

そして、ゲームラリーを実施した。初日には「車いすの使い方が少し違っていた。」「福祉について各ブースでそれぞれ意味があるのに対して伝える部分が弱かった。」という改善点が見つかった。計画をするにあたっての詰めの甘さがあったと思う。しかし、2 日目、3 日目は改善することによって内容の濃い活動になったように思う。また、時間設定に関して各ブースの活動内容に対して時間の設定に多少の過不足があったことから、参加学生には少し負担をかけてしまったが、その協力によって円滑に活動を進めることができたように思う。

6. 活動風景

	
1 日目参加者	2 日目参加者
	
3 日目参加者	1 日の予定を書いた黒板

	
視覚障がい者体験	車いす体験
	
高齢者体験	ゴミ拾い・分別体験
	
昔遊び体験	お菓子作り

【文責：文学部コミュニケーション学科2年 河口比加理】

他大学視察 i n 愛知淑徳大学 活動報告

1. 目的

他大学のボランティアセンターとの交流を含め、地域連携及び学内の団体・サークル連携について意見交換をすることで、次の2点を活動の目的とする。

第一に、他大学のボランティアセンターの活動や運営方法を学ぶことで、ボランティアルームの運営について見直す機会とする。

第二に、他大学の学生と交流し、個人の意識の高揚を図る。

2. 活動内容

開催日：平成27年8月4日(火)13時～15時

場所：愛知淑徳大学星が丘キャンパス コミュニティコラボレーションセンター(CCC)

企画担当者：久保 圭(現代日本社会学部4年)

参加人数：教員1名、ボランティアルームスタッフ16名

内容：愛知淑徳大学コミュニティコラボレーションセンター(以下 CCC 略)を訪問し、意見交流を行った。

まず初めに、CCCの学生スタッフからCCCが学外のコミュニティとの連携を深め、地域社会と大学とのパートナーシップを推進し、社会の一員として地域の発展に貢献することを目的として活動していること、そしてCCCの概要を説明していただいた。

次に、「これからどのようなボランティアルームにしたいか」をテーマに全員で意見交流を行った。最後は、CCC内を自由に見学させていただきながら、学生スタッフ同士で意見交換を行った。

3. 活動報告

CCCは位置も大学の入り口付近にあり、室内は全面がガラス張りであるため開放的で学生が気軽に入りやすい雰囲気であった。そして、壁には学生がボランティアをしている様子の写真や、今までCCCが企画を行ったときに作ったポスターが貼られてあり、ボランティア情報を一覧にまとめたチラシが置いてあるなどの工夫がなされていた。そのため、CCCの前を通りかかった学生がボランティアに興味を持ったり、ボランティア情報をすぐに手に入れられるようになっていた。CCCは学生の自主性を重んじる機関で、それを意識の高い学生スタッフが支えており、よりよい機関として運営を行っていた。

今回ボランティアルームから参加した学生は1年生が多かったことから主にCCCの方の話を聞くことをメインとした。1年生の様子は、最初は戸惑っていたがCCCとボランティアルームを比較しながら、自分たちには何が足りないのかなどを考えていた。

上級生ももう一度ボランティアルームについて見直す機会になったと考えている。

後半の「これからどのようなボランティアルームにしたいか」という話し合いは、和気藹々とした雰囲気で行われたが、その中でもみんなははっきりとこうしたいという思いが伝わってきた。さらに自分の意見を書いて発表することで、全員で思いを共有することができた。

4. 感想

- ・開放的な雰囲気、学生は親しみやすいと思った。
- ・活動写真や手書きのポスターなどが壁に貼ってあり、学生の目をひきつけやすい工夫がなされていた。
- ・地域の施設や企業など、ボランティア内容も幅広く取り揃えてあった。
- ・学生に親切な掲示になっていた。
- ・ボランティアルームを学生にとってもっと身近な存在にしていくべきだと思った。
- ・もっと多くの人にボランティアルームを知ってもらうため、ボランティアルームを盛り上げていこうと思った。

5. まとめ

今回の愛知淑徳大学 CCC への視察は、3・4年生にとっては2回目、1・2年生には初めての視察となった。今回の視察を通して、下級生と上級生のそれぞれに気づきを得られたように感じる。

まず、下級生の1・2年生は今回が初めての他大学視察である。本学以外の大学ボランティアセンターを訪れ、他大学の学生スタッフとお互いの活動報告や企画に対する意見交換ができる貴重な機会になったと思う。さらに、改めてボランティアルームの存在意義や必要性、自分たち学生スタッフがやるべきことを再確認できたと思う。また、上級生の3・4年生は2回目の視察となったが、前回の視察をふまえて、CCCには“安定感”があると感じた。CCCの居心地の良さ、職員・学生スタッフ全員が自信に満ち溢れているのは何だろうと疑問に思っていたが、専属職員の方から愛知淑徳大学 CCC は約10年前にある教授の研究室からスタートし、5年前キャンパス増築に伴って現在の場所に移動してきたことを聞かせていただいた。この話から、彼ら CCC がここまで来るのに10年の歳月をかけてきたことに気づいた。

ボランティアルームは名張学舎の時からあるが、伊勢学舎に移設したのは5年目である。伊勢学舎での地盤は、CCCに比べると正直安定しているとは言い難く、ボランティアルームとの“安定感”における差を実感した。しかし、今回の視察で CCC の歴史を聞いたことによって、「ボランティアルームはまだこれからなんだ」、「私たち先輩がしっかりと名張学舎の思いを引き継いでいかねばならない」と励みにもなった。

そして「これからどのようなボランティアルームにしたいか」というテーマの意見交換

では、今後のボランティアルームを担う学生スタッフ同士が初めて思いを共有する場面となった。上級生にとって下級生がそこまでボランティアルームのことを考えていたのかと驚きと同時に「彼らならルームをしっかりと運営してくれるのではないか」と感じた。そして下級生にとっては、これから共に運営していく仲間同士で、それぞれのボランティアルームに対する思いや目標を確認できる良い機会になったと思う。

今回の視察によって得られたものが、個々の学生スタッフにどのような影響を与えるのか、どのような形で表れてくるのかはまだわからない。しかし、名張学舎時代のスタッフと唯一関わりのあった4年生からすれば、「私たちが卒業しても安心して後輩たちに任せられる」と実感できた視察であったことは断言できる。今回の視察でボランティアルームが10年先、20年先も発展し続けられるよう、後輩たちが成長していくきっかけになることを願う。

最後に、ご多忙の中、私たちボランティアルームを快く受け入れて下さった愛知淑徳大学CCCの職員及び学生スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。そして、今後とも皇學館大学ボランティアルームをよろしくお願いいたします。

6. 活動風景



7. 参加者名簿

学年	学科	名前
4 年	現代日本社会	久保 圭
3 年	現代日本社会	大和田野 澄香
	教育	柘植 美早
2 年	コミュニケーション	河口 比加理
1 年	国史	伊藤 駿介
	国文	上野 寛登
		川村 涼太郎
		山口 遼
		服部 竜
	教育	宇城 萌
		田畑 奈那子
		千葉 星佳
		林 佳那
		山下 夕貴
		横山 有弥
	コミュニケーション	川口 真奈

【文責：現代日本社会学部 4 年 久保圭、教育学部 3 年 柘植美早】

防災運動会 活動報告

1. 目的

子どもに関わるボランティアに参加意欲はあるが、参加出来ずにいる学生が多い。このような学生に子どもに関わるボランティアを提供し、ボランティアに参加するきっかけを与えると同時に、ボランティア参加を促すことを目的とした。また、子どもたちに防災について改めて考えてもらう必要性を感じたため開催したという経緯もある。

2. 活動内容

日時：平成 27 年 6 月 21 日（日）午前 11 時～午後 15 時

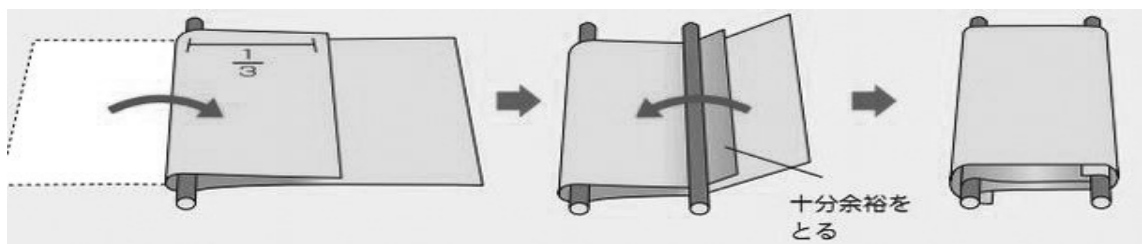
場所：総合体育館サブアリーナ

参加人数：児童 9 名 学生 20 名

担当者：坂元美咲 内藤悠

子どもたちに防災の知識を楽しみながら身に付けてもらえるように、3つの競技を考案した。それは「簡易担架 DE レース」「防災学べる〇×クイズ」「防災袋の中身はなに？」である。児童と学生混合にした3つのチームに分けて、競う形で実施した。順位に応じた得点を加算し一番得点の高いチームを優勝とした。以下競技説明である。

1つ目の「簡易担架 DE レース」は、災害時に子どもたちが主体的に動くことができるよう、身近なものを利用した災害救助器具の作り方を子どもたちに教えることを目的に実施した。競技内容は、チームで簡易担架を作り、いろんなかたち・重さのもの（大小ボール、跳び箱など）を2人で指定の場所まで運び、全員が運び終えたタイムを競うという形式とした。簡易担架に使用したのは約2メートルの棒2本と毛布である。作り方は、毛布を広げて、中央に2本の物干し竿を人の肩幅より少し広めの間隔で毛布から両端が出るように置く。片方から毛布をめくって、反対側の棒の上に掛ける。反対側の棒に、毛布を巻きつけるように折り返し完成である。



2つ目の「防災学べる〇×クイズ」は、子どもたちに災害への対処方法の基礎知識を学んでもらうために実施した。その方法として防災に関するクイズを9題出題しチームで正解を考える形式とした。出題内容例としては、「あなたがスーパーマーケットにいるときに大地震が起きた場合、最初にとる行動で正しいのは非常口から逃げることである。〇か×か。」「海岸にいるときに揺れを感じました。このときにとるべき行動で正しいのは海の様子を観察することである。〇か×か。」のように身近な防災についてのクイズから、「NTTの非常用ダイヤルの番号は171である。〇か×か。」といった災害時に役立つようなことを内容とした。

「防災袋の中身はなに？」は非常時に備え準備しておく必要があるものを知ることが目的に実施した。災害時に必要となるものを防災袋に見立てたカゴの中に入れ、中を一度だけ見て入っていたものを記憶し、どれだけ中身を覚えていたかを競うものである。準備したものは、ラジオや懐中電灯、紙コップ、カイロなどといった災害時に必要であるものにし、どんな場合にどんな用途で使用するかを正解発表時に伝えた。

3. 活動報告

今回の活動は、昨今重要視されている防災について子どもたちが学ぶとともに、学生にとって普段関わる機会の少ない児童達との触れ合いを目的に開催した。ただ卓上で防災について学ぶのではなく、体を使って学ぶことで印象に残りやすく実際に災害が起こった際に有効になると考えた。活動はゲーム性を加えるため、防災運動会という形とした。

当日は児童の保護者の方も見学に来ており、親子で防災について考えてもらうきっかけとなった。競技に移る前にチーム内で自己紹介をしてもらった。自己紹介後、開催者挨拶と簡単な競技紹介、準備体操を実施した。

第1競技である「簡易担架 DE レース」では身近にあるもので担架を作り、災害時に活用できるようにすることを目的とした。簡易担架作りは、一度開催者が前で例として見せ、その後チームで一人一度は練習できるように時間をとった。レースということで、簡易担架が途中で崩れてしまう場面があったため、「実際にそのようなことがあってはいけないのではないか」ということを参加者に考えさせ、減点対象とした。参加者は簡易担架を慎重に作製し、回数を重ねるごとに早くなっていたように見えた。簡易担架を使って運ぶものは安全面を考慮し人間ではなく、運びにくく慎重にならなければならないボールや、重さのある跳び箱とした。参加者はボールや跳び箱が人間であると見立て、実際の災害時にどうすればよいかを考えながら競技に参加していた。

この後に昼食として災害時用の保存食の試食をした。用意したものは、乾パン、3年間保存可能なカレー、水を入れるだけでできる簡易餅である。普段あまり見ることもない保存食もあり、参加者も興味津々の様子であった。バリエーションに富んでおり、参加者も「保存食とは思えない」「普段口にしているものと変わらない」味であることに大変

驚いていた。

昼食後、第 2 競技である「防災学べる〇×クイズ」を実施した。問題が今後起こりうる災害に対しての自分たちの正しい行動について問うものであったため、児童も参加学生も真剣に考えていたように思う。普段目にすることのない災害標識も提示することにより、新たな災害知識を深めることができていた。競技最後に出題した問題のおさらいとして「非常用伝言ダイヤルの番号は何番でしたか。」と全体に投げかけると、「1 7 1 !!」と全員で声を合わせ答えることができていたので学習の成果を感じることができた。

第 3 競技は、「防災袋の中身はなに？」である。災害時に必要となるものを確認し、災害が起こる前に準備しておくことが大切であるということを感じてもらうために企画した。防災袋に入っている非常時に必要なものを記憶して、チーム一人ひとりが順番に被らないよう答えるという競技であるが、用途やなぜ必要かを考えたうえで競技をしているため比較的たくさん記憶することができていたように感じる。競技終了後に全員で用途や必要性について考えられたことは、この企画の趣旨に沿う良い活動だったように思った。

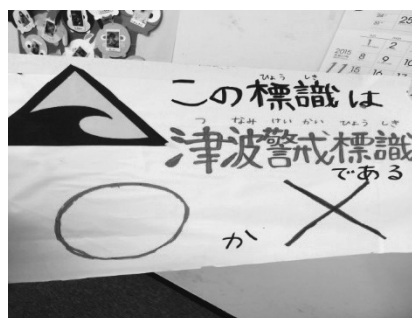
4. 資料



プログラム



児童用募集チラシ



防災学べる〇×クイズ 問題例

5. 参加者からの感想

【児童】

- ・ごはんをたいてカレーやおもちがすごくおいしかったです。
- ・ごはん作りをするとき、とても復習になってよかった。
- ・お兄さんと仲良くなれてうれしかった。
- ・簡易担架レースが疲れました。
- ・たのしかった。
- ・これから気をつけようと思いました。
- ・家族に今日の話を話したいです。

【学生】

- ・子ども達と関わることができてよかった。
- ・防災について学ぶ、いいきっかけとなった。
- ・子ども達と接するのときに難しいこともあったが楽しかった。
- ・防災について知らないことがたくさんあって勉強になった。
- ・またこのような活動があれば参加したい。
- ・非常食が進化していてビックリした。
- ・チーム以外の子どもと関わる時間が欲しかった。

6. 反省

参加児童が 9 名と予想していたより少なかったのが残念であった。参加児童の保護者の方から、「募集チラシをもっと分かりやすくすべきであると思う。見学していて、しっかりした内容だと感じたため惜しいと思った。」という意見を頂いた。この意見に対し、企画担当者として他者に伝わる資料作成の難しさを感じた。企画担当者にとって何をするか十分分かっている状態で資料を作成したため、情報不足なところに気付かなかったのではないと思う。次回作成時は企画担当者以外に意見を求め改善していきたい。

また、資料配布先が少なかったことが参加児童が予想より下回った要因にあげられる。今回募集をかけたのは大学近隣の小学校 3 校である。小学校に限らず、学童等の施設に協力を要請したならば、参加児童数も増えたのではないかと考える。このような企画を開催したことが初めてということもあり、準備不足な点がいくつか出てきた。例えば、募集先を増やすことや募集チラシの改良などといった課題が見つかったので、次回このような企画を開催する場合は今回の結果を考慮していきたいと思う。

競技は「災害時に役立つ身近な防災」をコンセプトに立案した。参加者にもその意図が伝わっていると、競技風景や参加者の声から感じることは良かった。非常食の試食も楽しんでもらえたので良かった。防災についての情報を、多様な場合を想定した活動を取り入れたことで、多くの防災知識を伝えることができたのではないかと感じる。

今回一番開催して良かったと感じるのは、保護者の方も多少ではあるが、参加して児童と一緒に防災について考えることができたことである。家族で防災について考えるきっかけ

けづくりができたなら、この企画を開催した意義があったと思う。保護者の方からも「防災を学べるしっかりした企画だった。」という意見を頂いたので開催して良かったと感じた。また児童と関わる今回の企画は、学生にとって貴重な機会として、うまく機能したのではないかと考える。次回このような企画を開催するならば、募集の段階から保護者の方や地域の方にも募集したほうがよいと感じた。

競技反省としては、第1競技「簡易担架 DE レース」で早くゴールするために担架を雑に作ってしまったチームがあり、走っている途中で崩れてしまうということがあった。1レース終了後に崩したら減点というルールを導入したが、事前に簡易担架を使うときを想像させ、どのような担架を作ると実際の災害時に良いかを考えてもらうべきであったと感じた。また、第3競技である「防災袋の中身はなーに？」で、説明ばかりが続き、児童や参加学生が集中できていない場面が何度か見受けられたので、飽きさせない工夫、例えば説明と説明の間に防災グッズについてのクイズを取り入れえる等の配慮が必要だったと反省した。

6. 活動写真

	
自己紹介	簡易担架 DE レース
	
非常食試食会	集合写真

【文責：教育学部教育学科3年 坂元美咲】

3. アンケート報告

平成 27 年度メール登録者対象アンケート報告

1. 目的

ボランティアルームを利用している学生が、日頃ボランティアルームに対し何を求めているのか、などといったことを平成 27 年度の調査として実施し、コーディネート業務やボランティア促進企画に活かすために行った。そして、ボランティアルームの利用者の向上を目指すことを目的とした。

2. 内容

実施期間：平成 28 年 1 月～3 月

対象者：ボランティアルームメール登録者 215 名

方法：Google のスプレッドシートを活用し、ボランティアルームのメール登録者に対しメール配信を行った。スプレッドシートを活用した目的は携帯電話・スマホを利用しながら気軽にアンケートに答えてもらうためである。

アンケート内容：アンケートの項目は以下の 7 項目になる。

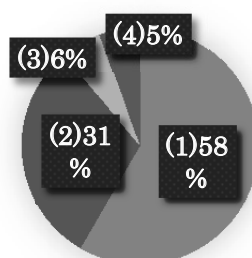
- ①ボランティア情報の入手方法、
- ②ボランティア参加・不参加について、
- ③参加したボランティアの感想
- ④ボランティアルームの印象について
- ⑤ボランティアルームスタッフについて
- ⑥ボランティアルームの満足度
- ⑦ボランティアルームに対しての改善点とする。

3. アンケート結果

現在のメール登録者 215 人に対しアンケートを行ったところ、38 人の学生から返信があった。少ない人数ではあるが、ボランティアルームをより良くするために貴重な意見として参考にさせていただく。質問は全部で 7 項目である。それぞれ、返信がしやすいようにできるだけ簡潔な質問にした。以下に詳しい結果を示す。

① ボランティア情報をどこで手に入れていますか。

メール配信(1)	21 名
メール配信及び掲示板(2)	11 名
掲示板(3)	4 名
その他(4)	2 名



全体的にメール配信を利用している学生が半分以上を占めていることが分かる。やはり手軽に情報を受け取れるという利点があるからではないかと考える。メール配信は情報共有するために必要なツールであるので、メールの内容をより多くの学生に見てもらえるように工夫していきたい。現在ボランティアルームでは、メールの内容を多くの学生に見てもらうため、タイトルをひきつけやすいものにしたり、本文を簡潔にしたりして読みやすくするよう心掛けている。一方で、掲示板でボランティア情報を得ている学生が予想より少なかったのも、掲示物を見やすくしたり、華やかにしたりするなどの工夫が必要である。年度初めなどは掲示物に力を入れていても、次第に疎かになる傾向があるため情報を受け取る側の立場に立って掲示物を見直していく必要があるのではないかと考える。

また、その他の中にはSNS等で情報を手に入れている学生が数人いた。インターネットが急速に普及したためである。これまでは学内の企画の報告を行うだけであったので、今後はSNS等でのボランティア募集等を検討していきたい。学生がより手軽にボランティア情報を手に入れるためにもう一度情報発信について考えていきたい。

② これまでにボランティアルームを通じて何回ボランティアに参加されましたか。

参加していない(1)	5 名
5 回以上(2)	8 名
1 回～2 回(3)	15 名
3 回～4 回(4)	10 名



回答した学生のほとんどは 1 回以上ボランティアに参加していることがわかる。ただし、これはメール登録者の一部であるので、全体的に見ると参加者は少ないと思われる。ボランティアと言うと堅苦しいイメージがあるのか、なかなかボランティア参加人数が集まらないことが今年

度も課題となってくる。「ボランティアを行うことの楽しさ」「参加者の声」「活動風景」などを多くの学生に伝えていくことにより、ボランティアを身近に感じてもらえるように工夫する必要がある。また、ボランティア参加の第一歩となるような企画を行う事により勇気の出ない学生を全力でサポートしていきたい。そのためにボランティアルームでは「HELLO ボランティア」という企画を実施している。学生がボランティアに対してどのようなイメージを持っているのか交流をすることで、ボランティアルームを身近に感じてもらえるようにしている。今後も、学生が参加しやすい雰囲気づくりを行っていきたい。

さらに、同じ学生が何度もボランティアに参加している傾向にある。これは、自らのスキルアップや実習等を意識しているためではないかと考える。その結果から、学生に合ったボランティアを見つけて最後までサポートすることがボランティアルームの役割であることを再確認した。

③参加したボランティアはどうでしたか。

機会があればまた参加したい(1)	18 名
もっと他のボランティアにも参加したい(2)	6 名
次回も参加したい(3)	11 名
無回答	3 名



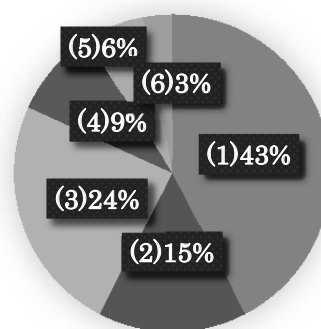
ボランティアに参加した学生全員が次回も参加したいというプラスの意見であった。ボランティア参加者全員が満足してボランティアを終えたことにスタッフは安堵している。だが、「機会があれば参加したい」という学生が大半であるので、また参加するようにその後のサポートを重点的に行う必要があるのではないかと考える。

現在ボランティアルームはボランティア参加後に感想等を書いてもらう『ココロの木』という活動を行っている。その活動ではなかなか活動後に感想を書きにくる学生が少ないという課題を抱えている。これは、参加後のサポートがうまくいっていないことが原因であると考え。こうした課題をなくすため、こまめに参加者に声掛けをしたり、感想を書く用紙をいつでも手に取れるような場所に配置したりするなどの工夫を行っていくことが大切であると考え。ココロの木を書きに来てくれた学生には、ボランティアの感想を聞くことはもちろん他にどのようなボランティアに興味を持っているのかまで聞けるようにしていきたい。また、月別に担当を決めスタッフも一緒にボランティアに参加し、学生との距離を縮めようと試みている。その際にココロ木の紙を渡し、その場で書いてもらう事もできると判断したためである。さらに、ボランティアの感想や他のボランティアの紹介もできるのではないかと考えている。今後、このような活動を続け

ていき気軽に学生がボランティアに参加できるような環境を作っていくことも大切であると考ええる。

④ボランティアルームの印象はどうか。

ドアを開けにくい(1)	15 名
いつでも利用したくなる(2)	5 名
明るく入りやすい(3)	8 名
いつでも利用したくなる、 明るく入りやすい(4)	4 名
ドアを開けにくい、怖い(5)	2 名
入ってみたいと思うが、 なかなか行けない(6)	1 名
無回答	3 名

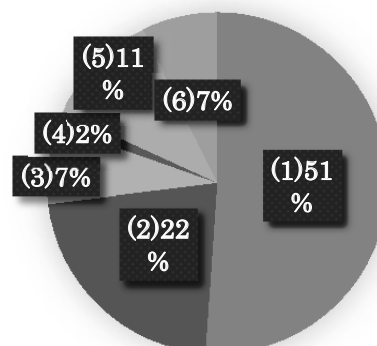


ドアを開けにくいといった学生が大半を占めていることがわかる。おそらく学生スタッフが中に閉じこもり、ドアを閉め切っていることが原因であると考え。せっかく勇気を出してボランティアに参加しようという学生の芽を摘み取ることになりかねない。ボランティア参加者を増やすにはまずはボランティアルームの印象を変えていく必要がある。ドアを開けにくいということであればこちら側からドアを開け、開放的な空間を作り出すことが大切であると考え。そのために現在、ボランティアルームの配置を変えたり、ドアを開けて入りやすいようにしたりしている。これまでは机を横向きにしており、ボランティアルームのスタッフが何をしているのか分からない状態であった。そのため、ボランティアルームに恐る恐る入ってくる学生も見られた。そこで、来客者を明るく出迎えるため机を移動し、いつでも学生の様子が見られるようにした。そうすることで、外で迷っている学生がいてもこちらから声を掛けやすい状態にすることができた。

一方で、明るく入りやすいといった学生も見られる。掲示物に力を入れ、華やかにしようと心掛けている結果であると考え。実際、ボランティアルーム内に入った学生は掲示物を見て興味を示している様子がうかがえる。今後も継続して掲示物に力を入れていきたい。また、ボランティアルームのスタッフは、学生に何か書類を書いてもらう際に話をつなげることを心掛けている。ボランティアの話をすることはもちろんだが、せっかく学生スタッフが運営をしているため学校生活の話もできるようにしていきたい。

⑤ボランティアルームのスタッフの対応はどうか。

笑顔で明るく丁寧である(1)	14 名
説明がわかりやすい(2)	5 名
ボランティア情報をきちんと把握できている(3)	2 名
説明がわかりやすい、笑顔で明るく丁寧である(4)	3 名
説明がわかりやすい、笑顔で明るく丁寧である、ボランティア情報をきちんと把握できている(5)	4 名
ボランティア情報をきちんと把握できている、笑顔で明るく丁寧である(6)	2 名
無回答	6 名



ボランティアルームの印象とは異なり、スタッフの対応にはおおむね満足している学生が多いようである。スタッフとしても喜ばしいことであるので、引き続き笑顔で明るく丁寧な対応を心掛けていきたい。その明るさをボランティアルーム内だけでなく、外へ出ていくことでスタッフの良さが十分に引き出せるのではないかと考える。今後は積極的にボランティアルームの外に出て、ボランティアをしようか迷っている学生をたくさん巻き込んでいきたい。

しかし、その他の意見として「気まずい」や「あてはまらない」といった回答も寄せられた。ただボランティアの参加申し込みをしに来ているのではないということを再認識し、ボランティア情報を一緒に確認し話を広げることでこうした意見は減るのではないかと考える。居心地の良さを提供することもボランティアルームにとっては必要なことであると考え。

⑥今のボランティアルームに満足していますか。

満足(1)	22 名
どちらともいえない(2)	9 名
大変満足(3)	6 名
やや不満(4)	1 名

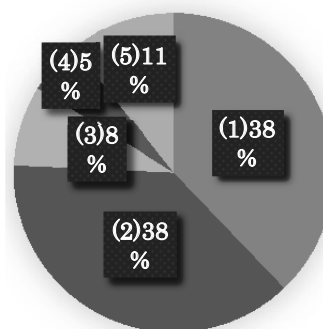


回答してくれた学生のほとんどが満足していることがうかがえる。満足している学生はボランティアルームの印象も良い。この結果からボランティアルームの印象を良くすることが、満足度の向上につながるがよく分かった。

しかし、「どちらともいえない」や「やや不満」といった学生がいるという事を考えておかなければならない。これはメール内容の不備であったり、対応がうまくいかなかったりなどのミスの積み重ねの結果ではないかと考える。これらの学生が全員満足になるように、学生の不満を取り除けるように貴重な意見をきちんと分析していく。例えば、こうした学生の不満の声を早く聞くためにポストなどを活用し、学生が思っていることが気軽に言えるような環境を作っていくべきだと考える。そして満足と回答した学生に対しては今後も満足が続くように手厚いサポート、明るい対応などを心掛けていきたい。また、ボランティアルーム内でのミスに関してはスタッフ全員で共有し、二度とミスを起こさないように注意していく。

⑦最後にボランティアルームに対し改善点があればお願いします。

今のままで満足(1)	14 名
ボランティアの幅を広げてほしい (災害、海外ボランティアなど)(2)	14 名
学内の企画を増やしてほしい、 ボランティアの幅を広げてほしい(3)	2 名
ボランティアルームを開ける時間を 増やしてほしい(4)	2 名
その他(5)	6 名



現状に満足している学生よりも何か改善してほしいという学生が半分以上である。東日本大震災の影響などもあるのか、特に災害や海外のボランティアに興味を持っている学生が多いようである。これまでは子ども・地域・福祉といった 3 種類のカテゴリーに分けて紹介をしてきたが、今後は新たにカテゴリーを増やすことも検討していく必要がある。そのためには、自分たち自身も災害・海外のボランティアに目を向け、積極的に関わっていく必要があるのではないかと考える。

また、その他の中には「別の地域のボランティアも取り入れてほしい」、スタッフに対し「ボランティア先の人と打ち合わせをするべき」「フレンドリーに」といった意見をいただいた。大学が伊勢市内にあるので、どうしてもボランティアが限定されてしまうことがある。学生の多くは別の地域から通学している学生もいるので、そのような学生の事も配慮し自分の地域でボランティアができるよう企業の方と連携を深めていきたい。さらに、スタッフに対しての意見については早急に改善しなければならないと感じた。1 人でもそうした不満をもっているのであれば、アンケートに回答していない学生の中にも不満を感じている人もいるのではないかと考える。ボランティアルーム全体の問題として取り組んでいきたい。

4. まとめ・反省

今回初の試みとしてメール配信によるアンケート調査を行った。調査から分かったことは、メール登録をしてもさほど内容にあまり興味を持ってない学生が多いという事である。このアンケート調査でも2回ほどアンケートお願いのメールを配信したにも関わらず、38名しか結果を得ることができなかった。このことは日ごろのメール配信で内容を読まずに流してしまっている無関心な学生が多いのではないかと考える。メール配信でボランティア情報を受け取る学生が大半であるのに、メールの内容を見ていないようではボランティア参加人数の向上は難しいと考える。一度スタッフ全員でメールの内容について再検討し、より多くの学生を引き付けられるような内容にしていかなければならないと痛感している。また、メールを配信した中でも何らかのエラーによりメールが送れない学生がいた。メール登録をする際スタッフがミスなく登録することはもちろん、学生に対しても受信拒否になっていないか、メールが届かない場合にボランティアルームに来てほしいなどと言ったこまめな声掛けが必要であると考え。新たにメール登録をする際、こうしたルールを全体に共有し何か問題が発生した際、ボランティアルームに来てもらうような体制を確立すべきであると考え。

また、ボランティアルームの印象について一部の学生が入りにくいなどと回答していたので、よりボランティアルームを開放的にする工夫が必要であると考え。例えば、スタッフが中に閉じこもってボランティア参加者を待つのではなく、積極的に外へ出ることでボランティアを伝えやすい雰囲気となるようにしていきたい。ボランティアルームの印象が良くなることが、スタッフに対しての印象が良くなることにつながるのではないかと考える。

全体としてはまず何よりも回答者が少なく、十分な結果が得られなかったことが一番の反省点である。回答しないという事は何か不満があると考えるので、28年度はそうした不満を取り除けるようボランティアルーム一同、より一層精進していきたい。だが、この調査を行ったことにより利用者の向上を目指すには小さなことから確実に見直していく必要があることを再確認した。今後もボランティアルームをより良いものにするため、きちんと学生の声に耳を傾けていきたい。

【文責：教育学部教育学部3年 柘植美早】

4. 資 料

平成 27 年度 年間スケジュール

日時	場所	活動内容
4 月 7 日(火)	図書館	第一回全体ミーティング
4 月 23 日(木)	図書館	第二回全体ミーティング
5 月 25 日(月)	712 教室	Hallo!!ボランティア
6 月 2 日(火)	712 教室	Hallo!!ボランティア
5 月 13 日(水) 14 日(木) 15 日(金)	食堂・購買前 芝生広場	ネパール地震救援募金
5 月 26 日(木)	図書館	第三回全体ミーティング
6 月 25 日(木)	図書館	第四回全体ミーティング
7 月 30 日(木)	図書館	第五回全体ミーティング
8 月 4 日(火)	愛知淑徳大学	他大学視察 in 愛知淑徳大学
8 月 5 日(水)	松阪市社会福祉競技会 館	サマースクール
8 月 17 日(月)	松阪市社会福祉競技会 館	サマースクール
8 月 20 日(木)	図書館	第六回全体ミーティング
8 月 25 日(火)	松阪市社会福祉競技会 館	サマースクール
9 月 17 日(金)	図書館	第七回全体ミーティング
10 月 22 日(木)	図書館	第八回全体ミーティング
10 月 30 日(金) 11 月 1 日(土) 2 日(日)	芝生広場	倉陵祭
11 月 21 日(土)	722 教室	倉田山清掃企画
11 月 26 日(木)	図書館	第九回全体ミーティング
12 月 6 日(日)	いせ市民活動センター	市民活動 YOUNG フェスティバル
12 月 6 日(日)	松阪三雲コミュニティ センター	松阪福祉祭り
12 月 21 日(木)	図書館	第十回全体ミーティング
1 月 28 日(木)	図書館	第十一回全体ミーティング
2 月 4 日(木)	711 教室	平成 27 年度年間反省会
2 月 18 日(木)	図書館	第十二回全体ミーティング
3 月 24 日(木)	図書館	第十三回全体ミーティング

平成27年度 ボランティア募集一覧

No	名称	所在地	施設名	内容	期間、日時	その他	締切	参加学生
1	ふれあい広場	伊勢市	二見老人福祉センター前駐車場	ミニSLコーナーで子どもの補助	平成27年5月17日(日) 9:30～13:30	雨天決行	平成27年 5月17日(日)	
2	子ども支援ボランティア	志摩市	志摩市教育支援センター	教育支援センターに通級している 児童・生徒の諸活動の支援	月1～2回程度		平成27年 4月30日(木)	
3	学生ボランティア	伊勢市	伊勢市生涯学習センター いせトピア	①いせトピアで行われる「子どもワクワク体験 フェスティバル」「新春まつり」など、 子どもを対象としたイベントへの参加 ②ボランティア活動についての参加体験学習会	平成27年5月30日～翌年1月10日 年間9回程度		平成27年 4月28日(火)	
4	沼地地区避難訓練ボランティア	伊勢市	伊勢市立沼本中学校	炊き出し、高齢者・障がい児者などの介助補助	平成27年5月8日(金)		平成27年 5月8日(金)	
5	ふれあい体育祭	松阪市	ハートフルみくも スポーツ文化センター	レクリエーション・踊り等	平成27年6月7日(日) 午前9時～午後3時まで	昼食あり	平成27年 5月7日(木)	
6	松阪市障がい児サマースクール	松阪市		児童と一緒にレクリエーションなどに参加し、 トイレ・食事などの介助の必要な児童に対しては 付き添いをしていただきたいと思います。	平成27年7月23日(木) ～8月27日(木) 全16回		平成27年 6月22日(月)	
7	第13回 6施設合同運動会	度会郡	わかば学園	運動会の補助	平成27年5月23日(土) 9:30～17:00	昼食あり、 JIR田丸駅から 送迎バスあり	平成27年 5月15日(金)	1名
8	松阪「命の駅伝」ボランティア	松阪市	松阪市中部大公園 芝生広場	会場準備・RUN&WALKコース補助・会場片付けなど	平成27年5月24日(日)	雨天決行	平成27年 5月18日(月)	
9	献血ボランティア	伊勢市	ララパーク はあと広場	献血のご協力	平成27年5月14日(木) 10:00～16:00		平成27年 5月13日(水)	
10	志摩ふれあいボランティア	志摩市	志摩市教育支援センター (志摩ふれあい教室)	児童・生徒の支援(勉強のお手伝い、野外活動など)	月1～2回程度	面接・ 事前申し込みあり	平成27年 5月24日(火)	
11	M祭！2015 キッズ・アート・フェスティバル	津市	三重県総合文化センター	イベント運営の補助義務(子どものサポート)	平成27年8月2日(日) 10:00～16:00	昼食あり、可能な 事前準備も参加	平成27年 7月7日(火)	5名
12	盲導犬同伴の 視覚障がい者のサポート	A志摩市、 B伊勢市	Aスベイン村、 B伊勢神宮周辺(内宮)	①手引や言葉による説明 ②買い物の情報伝達や支払い時の おれや小銭の確認 ③トイレ等の案内 トイレ内の配置説明 ④本人の希望に沿った時間配分	A平成27年5月31日(日) 9:00～17:00、 B平成27年6月1日(月) 9:30～13:30	事前研修あり	平成27年 5月22日(木)	
13	ふれあいスポレク祭	四日市市	四日市ドーム	レクリエーションの補助等	平成27年6月19日(金) 13:00～16:00 事前指導 平成27年6月20日(土) 8:30～15:00	昼食あり、 傷害保険に加入 (費用は先方が負担)	平成27年 6月4日(木)	
14	みえこどもの城☆キッズおしごと	松阪市	三重県立みえこどもの城	「みえこどもの城☆キッズおしごと広場」にて 各企業ブースでの受付や案内などのお手伝い	平成27年7月4日(土)・5日(日) 9:00～17:00	事前研修、 昼食、謝礼あり	平成27年 6月12日(金)	
15	津まつり高虎時代絵巻	津市	養成小学校	甲冑を着てパレード参加、事前準備、片付け等	平成27年10月11日(日) 9:00～16:00頃		平成27年 7月14日(火)	
16	伊勢市制10周年記念 障がい者体育祭	伊勢市	三重県営サンアリーナ (サブアリーナ)	体育祭の運営準備・準備・片付け	平成27年6月27日(土)		平成27年 6月10日(水)	
17	サマーボランティアスクール	松阪市	松阪市社会福祉協議会	ゲームラリーとお菓子作りの補助	①平成27年8月5日(水) ②8月17日(月) ③8月25日(火) 10:00～17:00	事前研修あり	平成27年 7月13日(月)	
18	小学生陸上練習の補助	鳥羽市	鳥羽市立加茂小学校	①小学生の陸上練習のサポート ②陸上練習による小学生とのコミュニケーション	平成27年6月18日(土)・26日(日)・ 30日(木) 7月2日15:30～16:30	謝礼あり	平成27年 6月12日(金)	2名
19	“ボランティアでまちづくり” みーつけた。私のボランティア	伊勢市	伊勢市福祉健康センター	視覚障がい者の方のガイドヘルプ、 調理ボランティアの補助、会場経営の手伝い	平成27年7月26日(日) 9:00～15:00		平成27年 7月2日(木)	1名
20	宮の里 夕涼み会 ボランティア	伊勢市	宮の里 駐車場	食事 介助、食事、ダンス、盆踊り、打ち上げ花火	平成27年7月25日(土) 17:00～19:30	夕食あり	平成27年 7月2日(木)	
21	車いすde伊勢神宮参拝プロジェクト	伊勢市	伊勢神宮内宮	内宮参拝での車イス介助、正宮前階段での 車イス持ち上げ、参加者との会話 など	平成7月25日(土) 7:30～11:00頃		平成27年 7月9日(木)	
22	鳥羽市放課後児童クラブ	鳥羽市	①たんぽぽ②エンゼルクラブ	児童クラブの指導員の補助	平成27年7月18日(木)～ 8月31日(月)		平成27年 7月9日(木)	
23	宮川花火ボランティア	伊勢市	宮川河畔	会場内で、ゴミの分別の案内します	2015年7月18日(土) 15:30～23:00		平成27年 6月25日(木)	
24	宮川流域 子ども川サミットin伊勢	伊勢市	伊勢市横輪町周辺 および横輪川	宮川流域7市町の小学校5・6年生児童のサポート	平成27年8月19日(水) 8:00～17:45	保険加入	平成27年 7月7日(火)	
25	宮川親子デイキャンプ	度会郡	度会町 宮リバー度会 パーク前 河川敷	宮川流域7市町の小学校1～4年生の児童と 保護者のサポート	平成27年7月25日(土) 9:00～17:00	ボランティア 保険加入	平成27年 7月7日(火)	
26	療育キャンプ	津市	津市青少年野外活動センター	自閉症児者が日常と異なる環境の中で共同生活をし、 対人関係・集団適応の学習をする。	平成27年8月15日(土)～ 8月16日(日) 11時半まで	研修会あり	平成27年 7月16日(木)	2名
27	産地地区・聖マツチャ会夏祭り	津市	聖マツチャ心豊苑	模擬店手伝い・準備、片付け・介助手伝い	平成27年8月1日(土) 16:00～20:00		平成27年 7月30日(木)	
28	アミュー松阪夏祭りボランティア	松阪市	アミュー松阪	施設の夏祭りでの出店の手伝い	平成27年7月18日(土)		平成27年 7月9日(木)	
29	さくら保育園なつまつり	松阪市	さくら保育園	保育園夏祭りでの出店のお手伝い	平成27年8月1日(土) 15時半集合～19時頃	動きやすい服装、 飲み物・タオルは持参	平成27年 7月23日(木)	
30	工房 山の風 鈴の音市	松阪市	鯛屋旅館周辺	鈴音の市での周辺	平成27年8月1日(土)16時集合	飲み物タオルは 持参、服装は 動きやすい服装で	平成27年 7月23日(木)	
31	「カトレア」2夏祭り	松阪市	「カトレア」2	施設の夏祭りでの出店の手伝い	平成27年8月7日(金) 16:00～20:00	送迎あり	平成27年 7月23日(木)	
32	向野園夏祭り	松阪市	向野園	夏祭りの出店の手伝い 利用者の介助	平成27年8月8日(土) 17:00集合		平成27年 7月23日(木)	
33	豊野みかんの里 夏祭り	津市	特別擁護老人ホーム 豊野みかんの里	夏祭りの会場準備・出店の手伝い	平成27年7月19日(日) 16:30～20:00	雨天決行、 夕食あり	平成27年 7月16日(木)	2名
34	聖母の家まつり	四日市市	聖母の家	祭りで利用者の方と一緒に行動したり、 模擬店のお手伝い。	平成27年10月18日(日) 10:00～16:00	雨天決行、 送迎あり、	平成27年 9月17日(木)	
35	地域ふれあい夏祭り	桑名市	特別擁護老人ホーム すいせんの里	屋台での販売やゲームの手伝い、 利用者さんの付き添い等	平成27年7月19日(日) 11:00～15:30	昼食あり	平成27年 7月8日(水)	
36	夏祭りボランティア	松阪市	こいのろの森	出店の準備・出店の店番、利用者との交流	平成27年8月8日(土) 10:00～20:00		平成27年 8月4日(火)	
37	きらきららぶ2015夏	多気郡	多気町社会福祉協議会 ささゆり苑	特別支援学級、学校へ通学している児童、 身体障害者・療育・精神保健福祉手帳を所持している 小学生以上の児童と一緒に夏祭りを楽しむ！	平成27年8月25日(火)		平成27年 8月20日(火)	
38	外宮さんちびっこ博士グランプリ	伊勢市	いせ市民活動センター 一階	小学生の外宮探索のサポート クイズ進行のお手伝い	平成27年8月1日(土) 8:00～12:00	昼食あり	平成27年 7月28日(火)	

39	たき児童館夏休みボランティア	多気郡	たき児童館放課後クラブ	ドッジボール・サッカー・工作など児童と一緒に学ぶ	平成27年7月21日(火)～ 8月31日(月) 9:30～17:30		平成27年 7月16日(木)	
40	多気天啓苑夏祭り	多気郡	多気天啓苑	参加者の方と盆踊りを踊る	平成27年8月9日(日) 17:00～20:00	17:00までに集合	平成27年 7月21日(火)	
41	みずほの里夏祭りボランティア	多気郡	みずほの里 入所サービス部施設内	屋台の補助員	平成27年8月22日(土) 13:00～15:45		平成27年 7月28日(火)	
42	障がい者スポーツ大会	伊勢市	三重県営総合競技場	陸上競技の進行に関する補助等	平成27年10月3日(土) 10:00～15:30	昼食あり、 傷害保険加入 (費用は先方が負担)	平成27年 8月13日(火)	
43	はなのその夏祭り	度会郡	老人介護福祉施設 はなのその敷地内	出店手伝い、簡単な介助(付き添い等)	平成27年8月30日(日) 18:00～19:30	17:00までに集合	平成27年 7月30日(木)	
44	まつさか福祉会夏祭り	松阪市	向野園 園庭	模擬店・バザーの販売の手伝い 駐車場の手伝い 片付け	平成27年8月8日(土) 17:30～21:00		平成27年 7月28日(火)	
45	かえっこバザール	多気郡	多気町民文化会館	かえっこバザールの運営のお手伝い	平成27年8月1日(土) 12:00～18:00		平成27年 7月28日(火)	
46	あいふえすた 三重2015	伊勢市	伊勢トピア 多目的ホール	受付・案内(会場内、会場周辺、駅や駐車場での 誘導など)弁当の配布、展示品の準備など	平成27年10月22日(木) 10:00～15:00		平成27年 9月29日(火)	
47	社会福祉施設、秋祭りスタッフ	津市	シルバーケア豊壽園	模擬店軽食の準備、ご利用者への配布	平成27年10月18日(日) 13:00～15:00		平成27年 9月10日(木)	
48	福祉の杜まつり	度会郡	宮の里ミタスメモリアルホール	模擬店などの補助スタッフ	平成27年10月25日(日) 9:00～15:00	送迎あり	平成27年 9月17日(木)	
49	ふれあいフェスティバル	津市	聖マツチャ心豊苑	模擬店手伝い・準備、片付け・介助手伝い	平成27年10月31日(土) 9:00～16:00	昼食あり、送迎車あり	平成27年 10月26日(月)	
50	車いすde伊勢神宮参拝ボランティア	伊勢市	伊勢神宮 内宮	伊勢神宮で身体の不自由な方、 車いすの方の参拝のお手伝い	平成27年11月15日(日) 7:30～11:00		平成27年 10月29日(木)	3名
51	ひだまりフェスタ	鳥羽市	保健福祉センターひだまり	当日の来館者の案内誘導、福祉バザーの運営協力、 ゴミの分別処理、着ぐるみを着て会場の盛り上げ	平成27年10月18日(日) 9:00～15:00		平成27年 10月8日(木)	
52	河崎商人市ボランティア	伊勢市	伊勢河崎商人館と河崎本通 及び河崎川の駅周辺	スタンブラーの運営、河崎商人市の案内、 河崎商人館の受付、エスサイダー等の販売	平成27年10月25日(日) 8:30～16:00		平成27年 10月20日(火)	
53	障がい者ボレーリング大会	津市	津グランドボウル	ボレーリングの進行に関する補助等	平成27年12月5日(土) 9:30～16:30	昼食あり	平成27年 10月15日(木)	
54	ハッピー・ハロウィン・パーティー10	津市	津市市民活動センター	商店街を回る「トリック・オア・トリート」のこどもたちの 誘導係会場内で行う各種アトラクションの サポート受付や会場案内、各種ブースのサポート	平成27年10月24日(土) 10:00～18:00		平成27年 10月7日(水)	
55	風子祭ボランティア	多気郡	社会福祉法人敬真福祉会 風の丘	利用者の見守りと職員の補助	平成27年11月15日(日) 10:30～14:30	昼食あり、交通費支給	平成27年 10月29日(木)	
56	松阪市手をつなぐ親の会 「運動会」のボランティア	松阪市	ハートフルみくもスポーツ 文化センター	介助を必要とする方たちと一緒に競技する、 運動会の進行係	平成27年11月22日(日) 9:00～15:30	昼食あり	平成27年 10月29日(木)	
57	日産労連クリスマスチャリティー 講演のボランティア	松阪市	クラギ文化ホール (松阪市民文化会館)	参加する介助を必要とする方の 誘導・移動・支援、排泄支援補助会の準備など	平成27年11月28(土)	交通費支給、 念のため判子持参	平成27年 10月29日(木)	
58	御園ボランティアまつり	伊勢市	伊勢市ハートプラザみその2階	イベントブースのスタッフ	平成27年10月31日(土) 10:00～12:00		平成27年 10月27日(火)	
59	高麗広ふれあいハイキング	伊勢市	伊勢市生涯学習センター いせトピア	①参加者と一緒にコースを歩き、参加者の見守り ②休憩所にて飲み物等の配布 ③高麗広公民館にて豚汁調理の手伝い	平成27年11月29日(日) 9:00～13:30		平成27年 11月9日(月)	
60	もったいないフェア スタッフ	伊勢市	伊勢市広域環境組合 リサイクルプラザ	体験コーナーなどの手伝い	平成27年11月28日(土) 9:00～14:30	昼食あり	平成27年 11月9日(月)	
61	第5回沼木まつりボランティア	伊勢市	上野小学校	①着ぐるみによる子ども達との交流 ②けん玉や竹馬等での子ども達との交流 ③バザーのお手伝い、等	平成27年11月15日(日) 8:00～15:30	伊勢市福祉健康 センターから送迎あり	平成27年 11月10日(火)	
62	クリスマス会ボランティア	多気郡	多気町社会福祉協議会	小学生以上の特別支援学級、学校へ通学している 児童と一緒にクリスマスを楽しむ (レクリエーション・料理のボランティア)	平成27年12月25日(金) 8:30～15:00頃	8:30～9:00集合	平成27年 12月10日(木)	
63	宮山保育園 ボランティア	伊勢市	宮山保育園	園の子ども達96人対象に何か催し物を披露する 及びその企画	平成27年11月25日(水) 10:15から30分程度	2、3人なら 送迎可能	平成27年 11月17日(火)	
64	三重県警大学生ボランティア	津市	三重県警察本部生活安全部 少年課	少年立ち直り支援活動、非行防止、 健全育成活動に関する諸活動	平成27年4月1日(水)～ 平成28年3月31日(木)	履歴書提出、 面接・事前研修 あり、ボランティア 保険に加入必須、 旅費支給	平成27年 1月23日(金)	16名
65	ひろがれ友情 ひろがれ仲間	津市	お城西公園	ゲームコーナー担当、子ども達と一緒に遊ぶ、 バザーコーナーでの売り子等	平成27年11月22日(日) 8:00～16:00頃	小雨決行 雨天中止	平成27年 11月19日(木)	
66	第18回三重県障がい者 スポーツ大会ボランティア	津市	三重県身体障がい者総合福祉 センター体育館	卓球競技の進行に関する補助等	準備:平成28年1月22日(金) 13:30～15:00、 大会当日:平成28年1月24日(日) 10:00～16:00	昼食あり、 傷害保険に加入 (費用は 当事務局が負担)	平成27年 12月17日(木)	
67	託児ボランティア①	伊勢市	福祉健康センター3階、 中央児童センター	0歳児から3歳児を職員と共に一部屋で託児する	平成28年1月27日(水) 10:15～11:30	教育学部幼児教育 コース専攻または 現代日本社会福祉 学部社会福祉分野 の在籍者で、 保育実習・児童施設 実習の経験者のみ	平成28年 1月21日(木)	2名
68	託児ボランティア②	伊勢市	福祉健康センター3階、 中央児童センター	0歳児から3歳児を職員と共に一部屋で託児する	平成28年3月20日(日) 9時45分～11時30分	教育学部幼児教育 コース専攻または 現代日本社会福祉 学部社会福祉分野 の在籍者で、保育実習・ 児童施設実習の 経験者のみ	平成27年 3月15日(火)	
69	多気児童館運動会	多気郡	多気町トレーニングセンター	競技の準備・得点・参加、大会の盛り上げ	平成27年12月24日 8:15～17:00		平成27年 12月17日(木)	
70	たき児童館冬休みボランティア	多気郡	たき児童館 放課後クラブ	ドッジボール・サッカー・工作など子どもと一緒に遊ぶ	平成27年12月24日(木)～ 平成28年1月7日(木) (土、日、祝は除く) 8:00～17:30の間のよい時間	多気町社会 福祉協議会の ボランティア ポイント適用	平成27年 12月17日(木)	
71	かえっこバザールin多気	多気郡	多気町民文化会館	会場の設営準備(前日及び当日の午前中)、 かえっこの運営、会場の撤収片付け作業	平成28年度2月21日(日) 10:00～17:00	可能ならば 20日(土)の午後の 準備も協力する	平成28年 1月28日(木)	1名
72	センターフェスタ	鈴鹿市	三重県立鈴鹿市青少年センター	創作体験の指導補助やお客様の誘導、 各ブースの受付、会場設営など	平成28年2月21日 10:00～15:00	昼食あり	平成28年 2月16日(火)	

73	あすなろ学園祭	津市	三重県立小児診療センター あすなろ学園	運営の補助・出し物の補助	平成27年10月25日(日) 10:00～14:30頃	昼食あり、 近くの駅まで 送迎(要相談)、 10:30までに集合		
74	伊勢奉職のつどい	伊勢市	皇學館大学 記念講堂	竹田先生の公演の受付	平成28年2月11日(木) 9:00～16:00	スーツ着用、 9:00に記念講堂 2階に集合	平成28年 2月9日(火)	
75	Jr.ベースボール教室指導員 補助ボランティア	志摩市	志摩市浜島ふさと公園 多目的グラウンド・ 志摩市浜島B&G海洋 センターアリーナ	幼児(5歳)～小学2年生の子どもを対象に野球の ルール・マナー・投げる・打つ・捕る等の基礎の指導	平成28年 月二回実施 10:00～12:00	指導登録料・ スポーツ安全 保険等が必要。	平成28年 3月1日(火)	
76	福祉につなぐ春の芸能まつり チャリティ公演のボランティア	松阪市	クラギ文化ホール (松阪市民文化会館)	お客さんの座席誘導、舞台設営手伝い等の会場準備	平成28年4月3日(日) 11:00～17:00	昼食あり	平成28年 3月3日(木)	
77	第18回三重県障がい者 スポーツ大会・フライングディスク	津市	三重県身体障がい者総合福祉 センターグラウンド	フライングディスク競技の進行に関する補助など	平成27年5月8日(金) 13:30～16:00頃 平成27年5月9日(土) 8:00～15:30 〔大会開始は10:00〕	申し込み用紙あり、 大会当日のみ 昼食＆お茶あり、 ボランティア行事保険 (当事務局負担)	平成27年 4月16日(木)	
78	車いすde伊勢神宮参拝プロジェクト	伊勢市	伊勢神宮 外宮	身体の不自由な方の外宮参拝のお手伝い	平成28年3月19日(土) 7:30～8:00(ボランティア受付)、 8:00～9:30(当日レクチャー)、 10:00～12:00(参拝お手伝い)	参加費100円、 パンダナ・ 長いタオル・ 手ぬぐいの どれか必要	平成28年 3月3日(木)	15名
79	伊勢市民活動フェスティバル	伊勢市	いせ市民活動センター北館 いせシティプラザ	ブース内での手伝い、炊き出しの手伝い、 炊き出しから出たゴミの分別、景品係など	平成28年3月19日(土) 10:00～15:00	炊き出し参加希望 者はエプロン持参	平成28年 3月17日(木)	
80	第39回松阪こどもまつり	松阪市						
81	むかしあそびっておもしろい！	松阪市	三重県立みえこどもの城	・各体験コーナーの補助 ・来客者の対応(交流)	平成28年3月19日(土)・20日(日)	交通費の支給有り、 食事の提供有り	平成28年 3月17日(木)	
82	こども環境フォーラムin皇學館	伊勢市	皇學館大学 記念講堂	こども環境フォーラムイベントの開催補助				8名

平成 27 年度 ボランティアルームスタッフ			
No	所属	学 年	名前
1	教育学部教育学科	4 年	大谷 奈都希
2			黒田 ゆかり
3			松谷 広志
4			山路 騎平
5			北村 和暉
6			川村 亮仁
7			境井 太郎
8	現代日本社会学部現代日本社会学科		久保 圭
9			西村 友希
10	教育学部教育学科	3 年	内藤 悠
11			柘植 美早
12			坂元 美咲
13	現代日本社会学部現代日本社会学科		出口 真太郎
14			大和田野 澄香
15			高奥 命
16	文学部コミュニケーション学科	2 年	河口 比加理
17	教育学部教育学科	1 年	横山 有弥
18			田畑 奈那子
19			山下 夕貴
20			千葉 星佳
21			林 佳那
22			林 雅也
23	文学部コミュニケーション学科		川口 真奈
24	文学部国文学科		山口 遼
25			上野 寛登
26	文学部国史学科		伊藤 駿介